

平成24年度（第1回）  
福岡市総合図書館運営審議会

日 時 : 平成24年7月27日（金）  
午前10時00分～  
場 所 : 福岡市総合図書館第2会議室

[ 次 第 ]

1 開 会

- ・館長挨拶
- ・委員・職員紹介

2 議 事

議題1 会長・副会長選出

議題2 平成23年度事業報告について

3 報告事項

報告1 「これからの図書館のあり方について」懇話会からの  
意見書提出について

報告2 香椎副都心公共施設整備事業について

4 閉 会

## 福岡市総合図書館運営審議会委員名簿

任期：平成24年7月9日から平成26年7月8日まで

委嘱区分	氏名	役職名	委員就任日	備考
学校教育 関係者 3名	井上 秀明	福岡市立東光小学校校長	H24. 7. 9	新任
	樋口 綾子	福岡市立照葉中学校校長	H24. 7. 9	新任
	渡邊 由紀子	九州大学附属図書館 eリソースサービス室長	H20. 7. 9	
社会教育 関係者 4名	松田 瑞恵	福岡市PTA協議会副会長	H22. 7. 9	
	平田 哲子	中央区男女共同参画協議会 副会長	H24. 7. 9	新任
	宮崎 武夫	福岡市公民館館長会副会長	H24. 7. 9	新任
	甲斐 景子	福岡市社会教育委員	H22. 7. 9	
読書活動団体 関係者 3名	八尋 理恵	福岡おはなしの会代表	H22. 3. 19	
	野田 真由美	子どもと絵本の会代表	H20. 7. 9	
	大野 まり子	こたべ文庫代表	H20. 7. 9	
学識経験者 4名	高橋 昇	九州女子大学教授	H20. 7. 9	
	坂川 和彦	九州大谷短期大学准教授	H20. 7. 9	
	田坂 大藏	福岡市博物館研究指導員	H24. 7. 9	新任
	藤野 力	西南学院大学教授	H16. 7. 9	
本市の住民 3名	田中 久美	公募委員	H24. 7. 9	新任
	小林 晶子	公募委員	H24. 7. 9	新任
	宮本 謙吾	公募委員	H24. 7. 9	新任



### I 概況

平成8年度に開館した福岡市総合図書館は、多くの市民に愛され、親しまれ、利用される施設を目指し運営を行っている。

昨年度の利用状況をみると、まず総合図書館の入館者数は、2,024,255人、1日平均7,004人となっております。

図書資料部門では、1日平均で、新規登録者35人、貸出冊数5,992冊、貸出利用者1,508人である。前年度と比較し、新規登録者は6.1%の減、貸出冊数は5.0%の減、貸出利用者数も4.0%の減となっている。一方で分館の貸出冊数は前年比0.1%の増、アミカス・少年科学文化会館は13.5%の増となっている。

団体貸出では、登録団体数は年々増加している。（登録団体数でみると総合図書館開館時151団体に対して約2倍の増加）

レファレンス等の調査相談件数はここ数年減少傾向にある。原因としては、全体の傾向をみると、インターネットの普及による蔵書検索等の簡易なレファレンスの減少、及び、専門的なレファレンスへの移行が続いており、レファレンス1件あたりの対応時間が増加した事が挙げられる。

平成19年度からはIT活用に努め、自動貸出機による資料の貸出や利用者用インターネット端末を5台設置してインターネット情報の提供も行っている。この年からインターネット及び館内OPACによる予約受付サービスも開始しており、平成23年度の予約総件数は平成18年度の2倍を超えた。インターネット及び館内OPACによる予約の割合は、予約件数全体の8割を超えるようになっている。

昨年度地下鉄博多駅・別府駅のお客サービスセンター（定期券うりば）及び情報プラザに新設した「図書返却ポスト」を利用して、平成23年度は90,864冊（1箇所1日平均約94.2冊）の資料が返却されている。平成24年度より西鉄薬院駅ビル1階「ときめきショップ ありがた屋」、地下鉄西新駅構内「ハートフルショップ momo」、入部出張所の3箇所に返却拠点・ポストを新設した。

文書資料部門では、本市公文書、郷土福岡に関する貴重な文学・行政・古文書・郷土の各資料を収集し、適切に保存・管理するとともに、現物資料またはマイクロフィルム等により市民の閲覧に供している。更に、赤煉瓦夜話を年10回、11月から12月には文学館企画展を行い約3,600人の入場者があった。また、古文書資料を理解するための古文書学講座も年4回開催等をし、その役割を果たしている。

映像資料部門では、1日平均の入場者数は、映像ホール・シネラが100人で昨年と比較して増加している、また、CD・ビデオの1日平均の貸出数は、CD等が235点、DVD等が114点で、昨年より若干減少している。

また、平成22年3月より利用者サービスの向上、経費削減等を目的に広告事業を実施している。貸出レシート、図書館カレンダー、図書館ホームページバナーへの広告掲載、広告放映モニターの設置を行い、平成23年度は年間約57万円の広告収入と年間約60万円の経費が節減された。

## 平成23年度決算

(単位：千円)

事 項	予算 (最終予算)	決算	差
<b>1 給与費等</b>	<b>348,993</b>	<b>345,969</b>	<b>3,024</b>
<b>2 管理運営費</b>	<b>647,680</b>	<b>639,314</b>	<b>8,366</b>
一般管理費	155,349	151,902	3,447
施設管理費	258,609	255,351	3,258
分館運営経費	233,237	231,610	1,627
全国公共図書館研究集会開催経費	400	366	34
施設整備公社委託料(事務費分)	85	85	0
<b>3 主催事業費</b>	<b>2,978</b>	<b>2,792</b>	<b>186</b>
映像企画事業等	1,523	1,337	186
講座等経費	1,455	1,455	0
<b>4 資料収集等経費</b>	<b>191,862</b>	<b>191,443</b>	<b>419</b>
図書・文書資料購入費	99,136	99,094	42
映像資料購入費	3,954	3,954	0
図書整理費	33,603	33,603	0
文書資料整理等経費	35,635	35,441	194
収集保存等経費	12,172	12,078	94
行政資料整理等業務 (緊急雇用創出事業)	1,452	1,445	7
小田文書マイクロフィルム及びデータ 作成業務(緊急雇用創出事業)	5,910	5,828	82
<b>5 図書利用サービス費</b>	<b>164,596</b>	<b>164,546</b>	<b>50</b>
一般利用サービス費	161,856	161,809	47
団体貸出運営費	2,210	2,207	3
こども図書館運営費	530	530	0
<b>6 国連寄託図書館経費</b>	<b>13,332</b>	<b>13,223</b>	<b>109</b>
国連寄託図書館経費	9,302	9,302	0
国連資料整理業務(緊急雇用創出事業)	4,030	3,921	109
<b>7 文学館費</b>	<b>16,518</b>	<b>16,496</b>	<b>22</b>
文学館事業費	2,243	2,234	9
文学館管理運営費	11,887	11,887	0
福岡市文学館資料整理等業務 (緊急雇用創出事業)	2,388	2,375	13
<b>8 施設整備費</b>	<b>46,018</b>	<b>46,018</b>	<b>0</b>
図書館分館整備事業	46,018	46,018	0
合 計	<b>1,431,977</b>	<b>1,419,801</b>	<b>12,176</b>

# I 概況の参考

## 〔部門別利用状況〕

### 【平成 22 年度開館日数】

総合図書館：287 日 入館者数 2,030,533 人 1 日平均 7,075 人

分館／東、和白、博多、博多南、中央、南、城南、早良、西：285 日～286 日

西部：194 日

### 【平成 23 年度開館日数】

総合図書館：289 日 入館者数 2,024,255 人 1 日平均 7,004 人

分館／東、和白、博多、博多南、中央、南、城南、早良、西、西部：287 日～289 日

## 1 図書資料部門

○総合図書館（分館を除く）

区 分	平成 23 年度		平成 22 年度		平成 21 年度	
	年度計	1 日平均	年度計	1 日平均	年度計	1 日平均
新規登録者(人)	10,070	35	10,725	37	12,612	44
貸出冊数(冊)	1,731,777	5,992	1,823,189	6,353	1,912,951	6,642
貸出利用者(人)	435,880	1,508	454,398	1,583	477,946	1,660

※貸出冊数は平成 21 年度はアミカス・少文の貸出冊数を含む。

○館別貸出冊数

(単位：冊)

区 分	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
東 図書館	324,706	315,083	317,504
和白 図書館	274,705	298,379	316,118
博多 図書館	221,962	221,635	219,343
博多南図書館	228,992	234,394	246,373
中央 図書館	366,219	362,782	347,599
南 図書館	379,908	394,012	396,824
城南 図書館	472,751	489,633	494,316
早良 図書館	279,153	295,962	293,286
西 図書館	386,357	421,715	461,544
西部 図書館	375,357	272,763	-
分館計	3,310,110( 64.3%)	3,306,358( 63.3%)	3,092,907( 61.8%)
アミカス・少文	109,779( 2.1%)	96,697( 1.8%)	-
総合図書館	1,731,777( 33.6%)	1,823,189( 34.9%)	1,912,951( 38.2%)
合 計	5,151,666(100.0%)	5,226,244(100.0%)	5,005,858(100.0%)

※平成 21 年度のアミカス・少文の貸出冊数は総合図書館を含む。

○団体貸出登録状況

(単位：団体、人)

区 分	平成 23 年度	平成 22 年度末	平成 21 年度末
登録団体数	310	311	311
団体会員数	53,457	52,397	50,686

○団体貸出状況（配本冊数） （単位：冊）

区 分	平成 23 年度	平成 22 年度末	平成 21 年度末
児 童 書	197,534	191,986	193,176
一 般 書	35,589	35,629	36,280
合 計	233,123	227,615	229,456

○調査相談件数 （単位：件）

区 分	平成 23 年度		平成 22 年度		平成 21 年度	
	年 度 計	1 日平均	年 度 計	1 日平均	年 度 計	1 日平均
レファレンス 利用案内	63,740	221	66,863	234	62,960	218
合 計	92,762	321	104,034	364	83,567	290

※平成 21 年度についてはポピュラー部門のレファレンス統計値が欠けている。

○利用者用インターネット情報検索端末サービス

総合図書館 2 階パソコンルームにインターネットが利用できるパソコンを 5 台設置し、利用者自身がインターネットで情報を検索出来るサービスを実施している。

平成 23 年度 利用者数 9,036 人（1 日平均 31.2 人）

平成 22 年度 利用者数 8,650 人（1 日平均 30.2 人）

○自動貸出機の利用状況 （単位：冊／％）

区 分	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
利用冊数	2,504,720 / 49.7%	2,580,002 / 50.5%	2,514,259 / 50.2%

○予約件数 （単位：件／％）

区 分	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
インターネット	600,713 / 69.0%	549,329 / 65.9%	334,521 / 50.6%
館内検索機	116,955 / 13.4%	125,828 / 15.1%	147,839 / 22.4%
窓口・電話受付	153,538 / 17.6%	158,403 / 19.0%	178,366 / 27.0%
計	871,206 / 100.0%	833,560 / 100.0%	660,726 / 100.0%

※①窓口受付は電話予約を含む ②平成 19 年 10 月からインターネット予約の開始

○図書館以外に設置している「図書返却ポスト」の利用状況 （単位：冊）

区 分	博多駅		別府駅		情報プラザ		合計	1 か所当たり 1 日平均
	計	1 日平均	計	1 日平均	計	1 日平均		
返却冊数	39,266	108.2	24,150	98.1	27,448	76.3	90,864	94.2

## 2 文書資料部門

（単位：件）

区 分	平成 23 年度		平成 22 年度		平成 21 年度	
	年 度 計	1 日平均	年 度 計	1 日平均	年 度 計	1 日平均
レファレンス 利用案内	4,781	17	4,918	17	4,762	17
計	4,598	16	4,870	17	4,386	15
計	9,739	33	9,788	34	9,148	31

### 3 映像資料部門

区 分	平成 23 年度		平成 22 年度		平成 21 年度	
	年 度 計	1 日平均	年 度 計	1 日平均	年 度 計	1 日平均
映像ホール・シネ (人)	23,177	100	18,100	77	27,170	117
ミニシアター (人)	7,713	27	8,427	29	7,429	25
CD等貸出 (点)	67,802	235	73,831	257	75,121	256
DVD等貸出 (点)	33,010	114	39,190	137	50,976	174

## II 事業概要

### 図書資料部門

#### 1 資料収集（分館含む）

○所蔵状況

区 分	平成 23 年度 (3 月末現在)	平成 22 年度	平成 21 年度
図 書	1,916,633 冊	1,906,559 冊	1,829,161 冊
逐次刊行物			
雑誌	1,411 種	1,331 種	1,334 種
新聞	116 種	110 種	110 種
法令集追録	7 種	7 種	7 種
国会議事録他	2 種	2 種	2 種
その他（寄贈雑誌等）	804 種	836 種	821 種
マイクロフィルム	24,907 巻	24,763 巻	24,674 巻
CD-ROM、DVD	11 種	11 種	11 種

※ 数値は年度末現在。ただし逐次刊行物は各年度とも4月1日現在で、延べ冊数。

#### 2 読書行事

##### (1) 文庫活動ボランティア講座

地域における子どもの読書活動を推進するためのボランティアを養成することを目的として実施した。

##### ・初心者コース（全4回）

期 間 平成23年5月20日（金）～6月24日（金）

会 場 総合図書館第1会議室

受講者 279人（延べ人数）

テ ー マ	講 師
読み聞かせの基本	語りの森代表 富原美智子
読み聞かせの実際	福岡おはなしの会会員
読み聞かせの実習1	福岡おはなしの会会員
読み聞かせの実習2	福岡おはなしの会会員

※ 全4回受講での参加募集。

##### ・経験者コース（全4回）

期 間 平成23年9月7日（水）～10月28日（金）

会 場 総合図書館第2会議室・おはなしの家

受講者 130人（延べ人数）

テ ー マ	講 師
ストーリーテリングの基本	語りの森代表 富原美智子
ストーリーテリングの実際	福岡おはなしの会会員
ストーリーテリングの実習1	福岡おはなしの会会員
ストーリーテリングの実習2	福岡おはなしの会会員

※ 全4回受講での参加募集。

(2) 夏休み図書館の達人講座

子ども達に夏休みの自由研究等にも役立つ、図書館を利用した調べ学習の方法を学んでもらい、図書館利用に関する基本的知識を習得してもらう。

時 期 平成23年8月3日(水)、8月10日(水)

会 場 総合図書館

内 容 図書館利用マナーの説明や調べ学習の方法説明、ブックトーク等

参加者 27人(小学校4～6年生)

(3) おはなし会

総合図書館及び各分館において、福岡おはなしの会や各分館おはなし会の会員及び図書館職員により、絵本の読み聞かせやストーリーテリング、紙芝居等を内容とする「おはなし会」を定期的で開催している。他に季節に合わせた特別おはなし会を開催している。

○平成23年度実施状況(平成24年3月末現在) (単位:回、人)

行 事 名	月 日	内 容	延べ参加人数
おはなし会	毎週土・日曜日 (98回)	おはなし、絵本の読み聞かせ、紙芝居	4,363
こぐまちゃん おはなし会	毎月第2金曜日(13回) ※10月に2回実施	0～2歳児と保護者を対象に、わらべうた、絵本の読み聞かせ	867
こどもの日 特別おはなし会	5月1日(日)	おはなし、絵本の読み聞かせ等	437
クリスマス 特別おはなし会	12月25日(日)	おはなし、パネルシアター、ペープサード、紙芝居等	142

分館

分館名	行事名	回数	参加人数	分館名	行事名	回数	参加人数	
東図書館	どようおはなし会	44	539	博多南図書館	どようおはなし会	50	1,161	
	赤ちゃんおはなし会	12	154		赤ちゃんおはなし会	11	451	
	七夕会	1	51		冬のおはなし会	1	98	
	こわ～いおはなし会	1	13	中央図書館	土曜おはなし会	48	532	
	クリスマス会	1	67		赤ちゃんおはなし会	12	430	
和白図書館	どようおはなし会	50	582	南図書館	夏のおはなし会	1	69	
	赤ちゃんおはなし会	12	177		冬のおはなし会	1	46	
	クリスマスおはなし会	1	40		子どもおはなし会	52	657	
	おりがみ教室	1	36		赤ちゃんおはなし会	12	330	
博多図書館	どようおはなし会	21	252	城南図書館	子どもおはなし会	1	80	
	にちようおはなし会	12	95		クリスマスおはなし会	1	90	
	赤ちゃんむけおはなし会	12	333		早良図書館	どようおはなし会	51	872
	はるのおはなし会	1	30			春のおはなし会	1	120
	なつやすみおはなし会	1	36	冬のおはなし会		1	77	
	ふゆのおはなし会	1	49	あかちゃんおはなし会		11	602	
	手づくり教室	12	182	どようおはなし会	49	534		
	手作り布の絵本の会	11	42	スペシャルおはなし会	1	57		
西図書館	小学生のためのおはなし会	12	146	おりがみきょうしつ	12	153		
	土よう子どもおはなし会	52	1,398	だっこしておはなし会	12	568		
	小さい子のためのおはなし会	12	965	西部図書館	どようおはなし会	45	1,002	
			おおきくな～れ0.1.2.3おはなし会		10	417		
			夏の特設おはなし会		1	42		
				冬の特設おはなし会	1	43		

#### (4) 図書展示

ポピュラー部門、専門書部門（人文科学・社会科学・自然科学）、国際部門、こども図書館部門の各部門ごとに毎月のテーマを設定し、テーマに関する図書資料を、毎月、常設展示している。

##### ○平成23年度展示テーマ（総合図書館）

区分	ポピュラー	人文科学	社会科学	自然科学	国際	こども図書館
4月	知りたい、学びたい、やってみたい	日本の伝統工芸	自治体はいま	森林	日本で暮らす	大きくなったらなんになる？
5月	情報を読む 思考力を磨く	活字とジャーナリズム	女性・ジェンダー	発明・発見の歴史	日独交流150周年	としょかんだいすき
6月	よりよく暮らすために～社会保障・福祉をとおして考える～	日記文学	広告	化学に親しむ	タイ	ここまでわかった宇宙！
7月	生き方いろいろ	貴族と王室	鉄道を知る	動物の世界	サムライ・武士道	植物ぼんざい
8月	表現を探して～洞窟画から現代へ～	安土桃山文化	危機管理	自動車	平和を考える	
9月	アジアに親しむ～アジアマンス～	アジアマンス アジアの思想・哲学	アジアマンス アジアの政治経済	アジアマンス アジアの建築	アジアマンス アジアを食す	世界が平和でありますように
10月	科学の世界を楽しもう	日本にやってきた外国人	民間信仰	副作用と薬害	辛亥革命100年	むかしむかし
11月	つながる九州と福岡	福岡 歴史と地理	福岡 交通と経済	福岡 炭坑・製鉄産業	福岡 歴史・地理	I love fukuoka
12月	「食」を読む	本の装丁と出版の歴史	人権	北極・南極	世界の自然	本にでてくるいきものたち
1月		源氏と平氏	世界の食べ物	環境保全と絶滅危惧種	モンゴル	
2月	「クール・ジャパン」～日本のカッコよさ 素晴らしさ 再発見！～	宗教芸術	武力紛争と平和を考える	食と農	児童文学の世界	元気なからだ
3月	イギリス特集					さようならこんにちは

#### 3 ブックスタート支援事業

乳児検診時に配布する絵本を選定した。また、総合図書館他10分館において乳幼児向けおはなし会を実施している。

#### 4 福岡市子ども読書活動推進計画事業

福岡市子ども読書活動推進計画（第2次）が平成23年5月に策定され、総合図書館においては、児童書の充実、モデル児童図書目録の刊行などの読書に関する情報の提供及び子どもの読書に関するボランティア活動の支援等を実施した。

#### 5 国立国会図書館総合目録ネットワーク参加

平成11年度から参加し、国立国会図書館及び参加図書館の書誌データを検索している。また、平成14年度から書誌データ提供館となり、書誌データを毎週送信している。

6 大学図書館とのネットワーク

平成23年度は、9大学13図書館と相互貸借を実施している。

活動実績	平成23年度(3月末現在)	貸出	171冊	借受	343冊
	平成22年度	貸出	210冊	借受	329冊
	平成21年度	貸出	188冊	借受	359冊

7 福岡都市圏図書館等の広域利用

福岡都市圏住民の生涯学習機会の増大や利便性の向上を図るため、平成13年度より図書の貸出対象者を17市町（当初の22市町村から合併により変更）に拡大している。

・利用状況（平成23年度）

都市圏住民に対する貸出利用者1,336,840人、貸出冊数5,041,565冊

・総合図書館の登録者内訳（平成24年3月末現在、分館を含む）

福岡市民267,669人、福岡市外住民22,713人、合計290,382人

8 福岡県図書館協会相互貸借

福岡県図書館協会加盟の公共図書館協議会、大学図書館協議会、学校図書館協議会、専門図書館協議会の4団体の加盟図書館の間で平成18年11月より相互貸借が可能となった。

活動実績	平成23年度	貸出	11冊	借受	3冊
	平成22年度	貸出	3冊	借受	0冊

9 図書館ボランティア事業

登録者 77名（平成23年度）

活動内容 利用案内（登録・書架・利用者端末案内等）  
書架整理（開架資料の場所違い是正）  
書庫出納（閉架書庫から資料の出納）  
図書資料整理（新聞クリッピング等、資料の修理）

活動実績	平成23年度	1,578回	3,318時間
	平成22年度	1,282回	2,693時間

10 中学生職場体験受入

平成23年度 14校 40名

11 モデル児童図書目録（上級）の改訂

モデル児童図書目録（上級）の改訂作業を完了した。年度内に印刷を終え、平成24年4月末より総合図書館及び分館で配布を開始し、市内各団体や他都市図書館等にも発送した。

## 文書資料部門

### 1 資料収集

#### (1) 公文書資料の収集

- ① 完結後30年経過の永年保存文書83冊と、保存期間が満了した有期限保存文書のうち歴史的文化的価値があると認められた116冊を収集
- ② 平成23年度公文書資料目録（CD-ROM版）の発行

#### (2) 行政資料の収集

主に本市行政各部署が発行する刊行物等を中心に、1,339冊を収集

#### (3) 古文書資料の収集

##### ① 古文書資料調査及び収集

古代、中世、近世及び近現代の郷土福岡に関する歴史資料を収集

寄贈（332点）：中山尚武資料、毛利(レ)文書

購入（1,977点）：大森武雄関係資料、岩手家文書、高知県下防災防衛資料、生葉郡大石村文書、秋月藩士垂井文書、吉鹿安次郎関係資料

##### ② 平成23年度古文書資料目録17の発行

#### (4) 郷土資料の収集

福岡市を中心とする県内の各分野にわたる図書等2,243冊を収集

#### (5) 文学資料の収集

福岡出身や福岡在住の文学者、勉学などで一時期福岡に居住した文学者、福岡を題材とする文学作品を持つ文学者など、「福岡ゆかりの文学者」に関する資料を収集

購入 305点

寄贈 363点（図書・逐次刊行物 339点／資料 24点）

### ○資料収集状況

区分	総収集資料数	平成23年度	平成22年度	平成21年度
公文書資料	29,347冊	199冊	207冊	259冊
行政資料	40,959冊	1,339冊	698冊	1,374冊
古文書資料	62,980点	2,162点	2,377点	2,234点
郷土資料	95,525冊	2,243冊	1,024冊	4,981冊
文学資料	19,386点	668点	7,159点	480点

### 2 古文書学講座の開催

期日	時間	内容	講師	参加人数
9月3日(土)	14:00~16:00	古代	古都大宰府保存協会 重松敏彦	延 168 人
9月10日(土)	14:00~16:00	中世	太宰府市市史資料室 朱雀信城	
9月17日(土)	14:00~16:00	近世	九州大学准教授 岩崎義則	
9月24日(土)	14:00~16:00	近代	北九州市立自然史・歴史博物館学芸員 日々野利信	

### 3 郷土資料の展示

月	展示内容
4月	～年表と写真で見る～昭和30年代の福岡
5月	～年表と写真で見る～昭和30年代の福岡
6月	～年表と写真で見る～昭和30年代の福岡
7月	～年表と写真で見る～昭和30年代の福岡
8月	復興—福岡の戦災と震災からの復興—
9月	復興—福岡の戦災と震災からの復興—
10月	おいしい福岡
11月	おいしい福岡
12月	博多と平清盛～幻の“袖の湊”～
1月	博多と平清盛～幻の“袖の湊”～
2月	博多と平清盛～幻の“袖の湊”～
3月	—

### 4 福岡市文学館事業の実施

文学をとおして福岡の文化の継承と振興を図る。

#### (1) 企画展

タイトル	開催日程・会場・展示内容	入場者
「サークル誌の時代 労働者の文学運動 1950-60年代福岡」	平成23年11月3日(木・祝)～12月11日(日) (33日間 *第2会場のみ34日間) 第1会場：総合図書館1階ギャラリー 第2会場：赤煉瓦文化館1階展示室  【展示内容】 1950-60年代の福岡で、労働者たちが創造したサークル誌について紹介。サークル誌上の文学や言葉を現在に読むことを通して、そこに存在した言葉と文学運動の可能性を考える。	3,630人  第1会場 2,005人 第2会場 1,625人

## (2) 講座

タイトル	開催日程・会場・講師	参加者
企画展関連講座 ゲストトーク 「実践者は語る」	①平成23年11月12日(土) 講師：深田 俊祐(労働作家) ②平成23年11月19日(土) 講師：大野 隆司(詩人) 会場：福岡市赤煉瓦文化館2階会議室3	①20人 ②17人
企画展関連講座 トークセッション 「サークル誌の時代と現在 ー労働・文学・運動」	平成23年12月3日(土) 講師：トーク 小野俊彦(フリーター) 茶園梨加(九州大学大学院生) 田代ゆき(福岡市文学館嘱託員) コーディネーター 井上洋子(福岡国際大学教員) 会場：福岡市総合図書館3階第1会議室	54人
市民公開講座 「もうひとつの<日本>Part.2 ータイ国で受容される日本の 小説、映画、サブカルチャー」	平成24年1月13日(金) 講師：ナムティップ・メータセート (タイ国チューラーロンコーン大学文学部東洋言語学科日本語講座専任講師) 久保田裕子(福岡教育大学教育学部教授) 会場：福岡市赤煉瓦文化館1階展示室	23人
赤煉瓦夜話 *様々な講師による文学に関わる講座・講演(毎月第3木曜日18時30分) *会場：赤煉瓦文化館1階展示室 *定員：70名		全10回 計594人
タイトル	開催日程・講師	
vol. 35 郷土の詩歌と吟詠	平成23年4月21日(木) 講師：諫山岳陽(吟詠家・亀井神道流西日本吟詠会総本部宗家・会長)	
vol. 36 北斎の画業と江戸文学	平成23年5月19日(木) 講師：中山喜一郎(福岡市博物館学芸課長)	
vol. 37 歌舞伎 AtoZ	平成23年6月16日(木) 講師：岩井眞實(福岡女学院大学人文学部教授)	
vol. 38 おはなしおはなしおはなし 外国の物語いろいろ ～大人のためのストーリーテリング(3)～	平成23年7月21日(木) 講師：上村篤子(福岡おはなしの会)	
vol. 39 文豪と呼ばれた男・福本日南	平成23年8月18日(木) 講師：石瀧豊美(インタキ人権学研究所所長)	
vol. 40 一丸章 ー日本人の普遍的私詩	平成23年9月15日(木) 講師：龍秀美(詩人)	
vol. 41 幻灯「せんぷりせんじが笑った！」上映会	平成23年10月20日(木) 講師：坂口博(創言社編集人)	
vol. 42 ギンギラ太陽'sの作り方	平成24年1月19日(木) 講師：大塚ムネト(ギンギラ太陽's主宰)	
vol. 43 和本リテラシーの回復を願って	平成24年2月16日(木) 講師：中野三敏(九州大学名誉教授)	
vol. 44 文学と、文学館の役割と可能性	平成24年3月15日(木) 講師：今川英子(北九州市立文学館副館長)	

## (3) 福岡市文学館機関誌「文学館倶楽部」の発行(年2回)

## 映像資料部門

### 1 映像資料等の収集状況

アジア映画を中心とした国内外の優れた映像資料を収集し、貴重な映像文化財として長期保存を行う。

#### ○収蔵状況

区 分	総収蔵点数	平成 23 年度	平成 22 年度	平成 21 年度
映画フィルム	961 本	16 本	16 本	14 本
内訳	アジア映画	14 本	14 本	11 本
	日本映画	2 本	2 本	2 本
	その他	0 本	0 本	1 本
DVD／ビデオ	約 7,500 点	52 点	58 点	166 点
CD／カセット	約 11,300 点	37 点	75 点	242 点

### 2 上映事業の実施状況

映像ホール・シネラの運営等については、図書館と映像ホール・シネラ実行委員会が共催して行う。

上映事業については、図書館で収集しているアジア映画や日本映画の収蔵作品を上映する通常上映事業と、他の映像関係団体等との共催による企画や、福岡で上映される機会の少ない映画を特集的に上映する特別企画上映事業を実施。

※通常上映の日程 毎週水曜日～日曜日（1日1回～3回上映）

#### (1) 上映実施状況

① 通常上映	延上映回数	198回
(イベント込み)	延入場者数	7,669人
② 特別企画上映	延上映回数	251回
	延入場者数	14,691人
③ 貸館上映	延上映企画	13回
	延入場者数	959人
④ 年間合計	延上映回数	462回
	延入場者数	23,319人

#### (2) 主な特別企画上映

##### ① 「長谷川一夫特集」

日本映画を代表する美男子で、絶大な人気を誇った長谷川一夫の主演作「雪之丞変化」「銭形平次」など13本を上映。

期 間 平成23年5月3日（火・祝）～5月28日（土）／  
19日間・39回上映

延入場者 2,613人

##### ② 「イメージフォーラム・フェスティバル2011」

日本最大の実験映画のコンペティションであるイメージフォーラム・フェスティバル。九州では総合図書館が唯一の開催場所で今回が16回目の開催。

期 間 平成23年6月1日（水）～6月5日（日）／5日間・16回上映

延入場者 419人

##### ③ 「ポルトガル映画祭2010」

ポルトガル映画界の世界的巨匠マノエル・ド・オリヴェイラ監督を中心に注目のポルトガル映画「神曲」「アニキ・ボボ」など12本を上映。

- 期 間 平成23年6月8日(水)～7月2日(土) / 18日間・36回上映  
 延入場者 1,148人
- ④「山本薩夫監督特集」  
 生誕100年を迎えた社会派の巨匠・山本薩夫監督の「戦争と人間」「白い巨塔」など14作品を特集。  
 期 間 平成23年7月6日(水)～7月31日(日) / 20日間・40回上映  
 延入場者 3,534人
- ⑤「韓国シネマフェスティバル」  
 娯楽映画から芸術映画まで、近年話題の韓国映画の秀作を特集。「春夏秋冬そして春」「シークレット・サンシャイン」など12作品を上映。  
 期 間 平成23年8月3日(水)～8月27日(土) / 19日間・38回上映  
 延入場者 2,250人
- ⑥「小さな赤い花」  
 60年代中国の幼稚園を舞台とした中国映画の秀作「小さな赤い花」を上映。  
 期 間 平成23年10月23日(日)～10月26日(水) / 3日間・5回上映  
 延入場者 159人
- ⑦「映画女優・高峰秀子」  
 2010年12月に亡くなった日本映画史に残る大女優・高峰秀子の特集。「浮雲」「名もなく貧しく美しく」など13本を上映。  
 期 間 平成23年11月2日(水)～11月24日(木) / 18日間・37回上映  
 延入場者 3,163人
- ⑧「映画『この天の虹』上映」  
 北九州の八幡製鉄所を舞台にした「この天の虹」を中心に、国鉄、炭鉱など当時の労働者を描いた作品を上映。  
 期 間 平成23年11月25日(金)～11月26日(土) / 2日間・5回上映  
 延入場者 358人
- ⑨「PFFスカラシップ特集」  
 PFFスカラシップ20作を記念してぴあフィルムフェスティバルから羽ばたいた監督の作品「自転車吐息」「バーバー吉野」など10作品を上映。  
 期 間 平成24年1月5日(木)～1月15日(日) / 10日間・20回上映  
 延入場者 614人
- ⑩「ヤスミン・アフマド監督特集」  
 2009年に急逝したマレーシア映画の巨匠・ヤスミン・アフマド監督の作品「タレントタイム」「細い目」など6作品を上映。  
 期 間 平成24年1月18日(水)～1月27日(金) / 8日間・15回上映  
 延入場者 433人

### 3 映画講座等の開催

映画の上映に合わせて、映画に関する講演会等を開催した。

- (1)「かわなかのぶひろ特別講座」 ※司会 黒岩俊哉(九州産業大学教授)  
 演 題 「映画の彼方から此方へ」  
 実施日 平成23年6月3日(土)  
 入場者 37人
- (2)「伊奈新祐特別講演会」 ※司会 黒岩俊哉(九州産業大学教授)  
 日本を代表する映像作家が語る映像の過去・現在・未来  
 演 題 「ビデオアートからメディアアートへ」  
 実施日 平成23年6月4日(日)  
 入場者 53人

**I 図書資料部門****1 基本方針**

図書資料部門は、総合図書館を21世紀における学習・情報・文化の多様な市民ニーズに的確に応える生涯学習推進の中核施設と位置づけ、市民生活に密着した情報提供の役割に加えて、

- (1) 本市の図書館システム全体を統括するセンター機能
- (2) 幅広い豊富な資料を備える、高度で多様なレファレンスの中核機能
- (3) 特にアジアを中心とした国際資料・情報の収集・提供を図る国際資料センター機能

を有する福岡市の中央図書館としてその整備充実を図る。

**2 事業概要****(1) 図書資料の収集・整理・保存**

総合図書館は各分館との緊密なネットワークを構成し、図書、逐次刊行物、新聞の収集について、一層の充実に努め、本館での基本資料の一元的保存を行う。

**(2) 特別収書**

世界の絵本について収集を行う。

**(3) 主題別制によるレファレンスの充実**

利用者から寄せられる質問・相談に対し、一般参考、人文科学、社会科学、自然科学、郷土、国際、国連などの主題別部門コレクションを基盤とし、オンラインデータベース等の電子情報を活用してレファレンスサービスの充実を図る。

また、ビジネスに関連して図書館を利用するケースにたいしては、引き続きレファレンスとして情報提示を行っていく。

あらたに、各業種団体から寄贈を受けた協会誌等の専門誌の配架を開始する。就業支援として、各種国家資格取得のための教科書を集めたテキストコーナーを充実する。

**(4) 団体貸出**

地域文庫をはじめとする地域団体、留守家庭子ども会や学校・PTA等の登録団体に対し、図書館車や配本車による図書資料の団体貸出を行い、子ども達をはじめ広く市民の読書活動への支援を行う。

(5) 各種図書館間協力ネットワークの構築

県内公共図書館、国立国会図書館、大学図書館、専門図書館との相互協力ネットワークの推進を図る。

事業名	内容	実施時期
国立国会図書館総合 目録ネットワーク参加	公共図書館の資料の共有化、書誌サービスの標準化と効率化を図るため同ネットワークに参加し、当館書誌データの提供と、国立国会図書館及び参加図書館の書誌データ検索を実施している。	平成11年度 から継続
大学図書館とのネット ワーク	大学図書館の資料を市民が利用できるように、平成13年3月から1大学図書館、平成14年10月から5大学との相互貸借を開始した。 平成16年に2大学、平成17年に1大学、平成18年に2大学との相互貸借を開始し、現在は9大学13図書館と実施している。	平成12年度 から継続
福岡都市圏図書館等 の広域利用	日常生活圏の広域化にあわせ、福岡都市圏の図書館等は、図書の貸出対象の居住者要件を、当該市町村居住者から福岡都市圏全体の居住者に拡大している。	平成13年度 から継続
福岡県図書館協会の 相互貸借	相互貸借の円滑化により図書館サービスの充実を図るため、福岡県内の公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館の4団体間で、相互貸借を実施している。	平成18年度 から継続

(6) 読書普及活動

文庫活動ボランティア講座や講演会等を行う。

事業名	内容	実施時期
文庫活動ボランティア講座 (初心者コース) (経験者コース)	地域における子どもの読書活動を推進するためのボランティアの資質向上をはかることを目的として実施する。	平成24年 5月～11月
おはなし会	乳幼児から小学校低学年児童を対象として絵本の読み聞かせや紙芝居などを行い、本への親しみと読書の楽しさを伝え、読書習慣の養成を図る。(親子での読み聞かせ活動支援にむけ、読み聞かせの講習を実施する。)	毎週 土曜日 日曜日
赤ちゃん向けおはなし会	0～2歳児と保護者を対象として、絵本の読み聞かせやわらべうたを行い、ブックスタートをきっかけに、高まっている絵本への関心を持ち続け、更に、読み聞かせの楽しさや絵本への親しみを育むことを目的として実施する。	毎月 第2金曜日
夏休み図書館の達人講座	子ども達の読書意欲の高揚と、図書館マナー・読書マナーを身につけさせ、子ども達の読書普及を図る。	平成24年 8月

(7) 司書資格取得及び研修

文部科学省の委嘱を受けて大学で実施する司書講習を職員に受講させることにより、総合図書館職員の司書資格取得を推進する。

また、文部科学省主催研修や図書館地区別研修への派遣、各種会議への参加により司書職員の専門性の向上に努める。

(8) その他

事業名	内容	実施時期
ボランティア受入事業	生涯学習の観点から市民に自己開発・自己実現の場を提供するため、図書館活動に協力できる市民ボランティアを受け入れる。分館での受入も拡大する。	平成12年度 から継続

### 3 分館運営

市民が日常生活圏の中で図書館を利用できるように、各区の市民センター及び地域交流センター内に分館を設置している。平成22年7月20日に西部図書館を開館し、分館は全部で10分館となった。

分館では、生活に密着した情報、趣味、娯楽、読み物等の一般図書、児童図書を中心に資料を収集し、館内での閲覧や貸出を行う他、おはなし会等の読書普及活動を行っている。

総合図書館と分館はコンピュータネットワークにより資料情報を共有するとともに、毎日連絡車を運行し資料の貸出や返却がどの図書館でもできるように、物流のネットワーク化を図っている。

事業名	内容	実施時期
おはなし会	乳幼児から小学校低学年児童を対象として絵本の読み聞かせや紙芝居などを行い、本への親しみと読書の楽しさを伝え、読書習慣の養成を図る。(親子での読み聞かせ活動支援にむけ、読み聞かせの講習を実施する。)	次ページ のとおり
赤ちゃん向けおはなし会	0～2歳児と保護者を対象として、絵本の読み聞かせやわらべうたを行い、ブックスタートをきっかけに、高まっている絵本への関心を持ち続け、更に、読み聞かせの楽しさや絵本への親しみを育むことを目的として実施する。	次ページ のとおり

# おはなし会一覧

(いずれも参加費自由・無料)

総合図書館	毎週土、日曜日	午後 2:30~3:00
	毎週日曜日 (小学生向け)	午後 3:15~3:45
	第2金曜日 (赤ちゃん向け)	午前 11:00~11:20 (0歳児)
午前 11:30~11:50 (1・2歳児)		
和白図書館	毎週土曜日	午前 11:00~11:30
	第2木曜日 (赤ちゃん向け)	午前 11:00~11:15
東図書館	毎週土曜日	午後 3:00~3:30
	第3水曜日 (赤ちゃん向け)	午前 11:00~11:20 頃
博多図書館	第1・第4土曜日、第3日曜日	午後 2:30~3:00
	第2土曜日 (赤ちゃん向け)	午後 2:00~2:20
博多南図書館	毎週土曜日	午後 2:00~2:30
	第4水曜日 (赤ちゃん向け)	午前 11:00~11:20
		午前 11:30~11:50
中央図書館	毎週土曜日	午後 2:30~3:00
	第4木曜日 (赤ちゃん向け)	午前 11:00~11:30
南図書館	毎週土曜日	午後 2:30~3:00
	第1木曜日 (赤ちゃん向け)	午前 11:00~11:20 頃
城南図書館	第1~第4土曜日	午後 3:00~3:30
	第3木曜日 (赤ちゃん向け)	午前 11:00~11:20 (0歳~1歳半児)
		午前 11:30~11:50 (1歳半~2歳児)
早良図書館	毎週土曜日	午後 3:00~3:30
	第4木曜日 (赤ちゃん向け)	午前 11:00~11:20
		午前 11:30~11:50
西図書館	毎週土曜日	午後 3:00~3:30
	第2日曜日 (小学生向け)	午後 3:00~3:30
	第4水曜日 (赤ちゃん向け)	午前 11:00~11:20
		午前 11:30~11:50
西部図書館	毎週土曜日	午後 2:30~3:00
	第1水曜日 (赤ちゃん向け)	午前 11:00~11:20
		午前 11:30~11:50

## Ⅱ 文書資料部門

### 1 基本方針

文書資料部門は、歴史的・文化的価値を有する本市の公文書及び行政資料、並びに郷土福岡の歴史に関する古文書及び郷土資料を収集、整理・保存し、調査研究を進め、閲覧に供する「本市の資料保存センター」としての役割を果たす。また、福岡の文学資料を収集、整理・保存、閲覧に供し、文学をとおして福岡の文化の継承と振興を図る。

### 2 事業概要

#### (1) 公文書等

##### ① 公文書

完結後30年を経過した永年保存文書及び保存期間が満了した文書で歴史的文化的価値があるものを収集、整理、保存、閲覧に供する。また、完結後20年を経過した永年保存文書で、保管の委託が適当であるものについては、受託する。

ア 収 集 福岡市の各公文書規程に基づき行う。

イ 整理・保存 資料保存のための燻蒸処理を行い、件名整理及び閲覧制限項目のチェック完了後、検索用目録の作成とマイクロフィルム撮影を行う。

ウ 閲 覧 完結後30年を経過した公文書を、文書資料室において原則としてマイクロフィルムにより閲覧に供する。資料の館外貸出は本市職員に限り許可する。

事業名	内 容	実施時期
公文書資料目録24年度版(CD-ROM)の作成	平成23年度までに収集・整理した公文書資料(永年保存文書)の簿冊及び件名目録を検索用として作成する。	平成25年3月

##### ② 行政資料

ア 主に本市各部局が発行する刊行物等を収集、整理・保存し、文書資料室に配架して閲覧に供する。

イ 寄贈による未整理資料、広報写真ネガフィルム及びポスターのデータ入力、整理を行う。  
(緊急雇用事業)

#### (2) 古文書

古代、中世、近世及び近現代の郷土福岡に関する歴史資料を収集、整理・保存し、閲覧に供するとともに、調査・研究を行う。

① 収 集 購入、寄贈等による。

② 整理・保存 燻蒸処理し、収集資料群毎の詳細調査・整理及び資料の補修等を行い、マイクロフィルム撮影をして、検索用目録を作成する。

③ 閲 覧 原則としてマイクロフィルムにより閲覧に供する。

事業名	内 容	実施時期
古文書学講座	古代・中世・近世・近代の古文書学の基礎を学ぶ講座	平成24年9月
古文書資料目録18の発行	平成24年度までに収集した古文書資料の検索用目録を作成する。	平成25年3月

(3) 郷土資料

近世までは筑前国、近代以降は福岡市を中心とする福岡県内の各分野の資料、及び山口・九州各県の地方史誌等を収集、整理・保存し、閲覧に供するとともに、調査・研究を行う。

- ① 収 集 購入、寄贈等による。
- ② 整理・保存 図書等の収集資料の分類や装備等（必要に応じて燻蒸処理）を行い、主に明治期以前の資料については順次マイクロフィルム撮影をして、閲覧用の複製本を作成する。
- ③ 観 覧 郷土・特別資料室に配架して閲覧に供する。  
貴重資料については、原則としてマイクロフィルムと複製本により閲覧に供する。

(4) 文学資料

福岡ゆかりの作家等に関する文学資料の収集、整理・保存し、閲覧に供するとともに、実行委員会による文学振興事業等を実施する。

① 資料

- ア 収 集 購入、寄贈等による。
- イ 整理・保存 図書等の収集資料の分類や装備等（必要に応じて燻蒸処理）を行う。
- ウ 観 覧 郷土・特別資料室に配架して閲覧に供する。  
(貴重資料は閲覧に供していない。)

② 福岡市文学館の運営

福岡市総合図書館と福岡市赤煉瓦文化館を活用した「福岡市文学館」において、企画展・文学講座等の事業を実施し、市民の文学に関する生涯学習活動を支援する。

事業名	内 容	実施時期
常設展示	福岡ゆかりの文学者や文学作品、福岡での様々な文学活動を紹介する。	通 年 (企画展期間中を除く)
企画展	総合図書館 1階ギャラリー 総合図書館 3階福岡文学資料室 赤煉瓦文化館 1階展示室	11月～12月頃 (年 1回)
赤煉瓦夜話	福岡ゆかりの文学者等による卓話会、講演等	偶数月 第3木曜日 (12月を除く)

(5) レファレンス業務

郷土・特別資料室及び文書資料室（総合図書館 2階）において、各資料に関するレファレンスを行う。

### Ⅲ 映像資料部門

#### 1 基本方針

映像資料部門は、映画フィルム等を後世に継承し、また、映像文化の普及・振興及び市民のアジア理解が深まることを目的に、

- (1) アジア各国及び日本で製作された優れた映画作品のフィルムを収集するとともに、貴重な映像文化財として長期保存すべくフィルムアーカイヴを運営する。
- (2) 収集したフィルムその他の映像資料は、映像ホール・シネラやミニシアターほかで上映・公開し、市民の映画への関心を向上させるとともに、アジア各国の歴史、文化などの理解を深め、また教養や知識を高めることを期す。
- (3) 映像作品を制作し、又はアジア映画の自主上映等を行う市民・団体に対して、映像ホール・シネラの利用などの支援を行う。
- (4) アジア映画に関する情報収集、調査研究を行い、このため、国内外の映画関係者との交流を行う。
- (5) 収集した映像資料の中のビデオ、DVD、CD等は、市民に貸出を行う。

#### 2 事業概要

##### (1) 映像資料の収集・整理・保存

事業名	内容	実施時期
映像資料収集事業	(1) アジアフォーカス福岡国際映画祭参加作品 (2) ビデオ、DVD (3) CD	通年

##### (2) 映像資料の調査・研究

東京国立近代美術館フィルムセンターをはじめとする国内外の機関・施設と連携し、映画フィルムの修復、保存等について調査・研究を行う。

##### (3) 映像資料の公開及び展示等

- ① 映像ホール・シネラ(246席)の運営
- ② ミニシアター(50席)の運営

##### (4) ビデオライブラリーの運営等

映像資料(ビデオテープ・DVD)と音声資料(CD・カセットブック)の館外貸出を行う。

##### (5) 映像ホール・シネラの運営等

映像ホール・シネラの運営等については、総合図書館と映像ホール・シネラ実行委員会が共催で行う。

(6) 主な上映事業（計画案）

事業名	内容	実施時期
イラン映画特集	現代イランの様々な変化を描いた秀作を特集。	平成 24 年 7 月
シネマテーク事業	<p>日頃福岡で上映されない映画を積極的に取り上げ、上映活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 渋谷実監督<b>特集</b> 小津安二郎、木下恵介と並んで松竹三大巨匠と呼ばれた渋谷実監督の<b>特集</b>。</li> <li>○ フランス映画祭 九州日仏学館との共催でフランス映画の最新作を紹介。</li> <li>○ 今井正監督<b>特集</b> 2012 年生誕 100 年を迎えた、巨匠・今井正監督の<b>作品特集</b>をする。</li> <li>○ 川端康成原作映画<b>特集</b> 文豪・川端康成の原作を映画化した<b>作品の特集</b>。</li> </ul>	平成 24 年 5 月 ほか
映画講演	映画に関する講演を開催すると同時に映画を上映し、映画への理解を深める。	平成 24 年 6 月 ほか
イメージフォーラム・フェスティバル 2012	日本最大の実験映画のコンペティションであるイメージフォーラム・フェスティバルから、一般公募作品と内外の映像作家の新作等により実験映画の最先端を紹介する。	平成 24 年 6 月
ぴあフィルムフェスティバル in 福岡	自主製作映画の日本最大のコンペティションである「ぴあフィルムフェスティバル」入選作を上映。	平成 24 年 7 月

## IV 広報活動

総合図書館を広く市民に利用してもらうため、各種媒体による広報を行う。

媒体名	目的と内容	発行回	配布先／発行数
市政だより	図書館事業の市民への告知を目的とし、シネラ上映案内、おはなし会・講演会などを掲載している。	月2回	福岡市内全世帯
総合図書館ホームページ	情報提供を目的とし、利用案内、各種お知らせ、映像資料案内、図書館資料検索などの項目を設けている。	月1回更新	
ホームページ「うえぶシネラ」	映像ホール・シネラのPRを目的とし、シネラの上映予定、作品内容を掲載している。また、メールマガジンも配信している。	月1回更新	
シネラNEWS	映像ホール・シネラのPRを目的とし、シネラの上映予定、作品内容を掲載している。	年11回	福岡市の施設・機関、マスコミ、定期購読者等／8000部
こどもとしょかんニュース	こども図書館の利用拡大、読書普及を目的とし、おはなし会やテーマ別本展示のお知らせ、新刊本紹介を掲載している。	年6回	福岡市の関係施設・機関、市内の保育所、幼稚園、小中学校等／2500部
こどもとしょかんのほんだな	市内の小学生を対象として、図書館の利用拡大を目的とし、小学校向けのお薦め本のリストなどを掲載している。	年4回	福岡市内の小中学校等／1350部予定
レファレンスだより	レファレンスサービスをアピールすることを目的とし、相談カウンターに寄せられたレファレンスの中から、事例を主題別部門毎に紹介している。	年12回	福岡市の関係施設・機関、関連図書館等／500部
KUNDL NEWS	九州国連寄託図書館の活動案内、国連資料の利用者拡大を目的とし、国連資料などを紹介している。	年6回	福岡市の施設・機関、福岡県内公共図書館等／700部
図書館要覧	他図書館、行政機関への当館の運営報告を目的とし、図書館各部門の現状・サービス、事業実績、組織・予算、分館の状況などを掲載している。	年1回	福岡市の関係施設・機関、関連図書館等／200部

## V 研究活動

図書館において調査・研究を行い、その成果を報告するため、研究紀要を発行する。

媒体名	目的と内容	発行回	配布先／発行数
研究紀要	収蔵資料に関する学術的な調査・研究の成果を報告することを目的に、図書館職員による研究論文、資料紹介、展示報告等を掲載する。  第12号まで刊行済み	年1回	各県の主な公共図書館、文学館、文書館、歴史資料館等／500部

これからの図書館のあり方について  
( 意 見 書 )

平成24年7月5日  
「これからの図書館のあり方について」懇話会

# — 目 次 —

はじめに	1
1 背景	2
2 福岡市図書館の課題	3
3 アンケート調査から見えてきた課題	5
4 これからの図書館の方向性	10
(1) 幅広い資料・情報の収集・保存	10
(2) 市民が利用しやすい環境づくり	10
(3) 環境の変化に対応する利用者サービスの充実	10
(4) 情報化の進展に対応したサービスの向上	11
(5) 地域と連携した子どもの読書活動の推進	11
(6) 映像資料・郷土資料・福岡文学資料など特色のある 資料の収集・保存等	11
参考資料	
1 福岡市総合図書館の基本方針（平成3年策定の基本計画より）	12
2 福岡市の図書館のあり方への意見等	13
3 「これからの図書館のあり方について」懇話会名簿	15
4 「これからの図書館のあり方について」懇話会開催経過	16
5 附属資料	17
6 校区別個人貸出利用率	27

## はじめに

図書館は、人々が生涯を通して、自由に学習機会を選択して学習することができる生涯学習社会の構築が求められている中で、必要な知識や情報を提供し、学習や調査研究活動を援助するなど重要な役割を担っています。

しかしながら、近年、経済状況をはじめ社会情勢が大きく変わり、図書館を巡る環境も国際化、情報化の急速な進展、図書館サービスに対する市民ニーズが多様化、高度化するなど大きく変化しています。

また、『公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準』（平成13年7月文部科学省告示）、『これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～』（平成18年4月文部科学省報告書）及び図書館法の一部改正（平成20年6月）など、これからの図書館運営に必要な新たな視点や方策等が示されました。

こうした社会状況の変化に対応し、福岡市の図書館がこれまで以上に市民や地域に役立つ図書館となるため、これまでの取り組みの方向を改めて整理するとともに、今、求められる図書館の役割を踏まえ、図書館を取り巻く新たな環境変化に対応する運営体制が求められるところです。

そこで、これからの福岡市の図書館の方向性について幅広い意見をいただき、新しいビジョン策定の参考とするために、「これからの図書館のあり方について」懇話会が設置され、学識経験者、学校図書館関係者、ボランティア団体代表者、地域文庫代表者、公募による利用者代表により平成23年9月から平成24年6月まで5回懇話会が開催されました。

また、一般市民や図書館利用者にアンケートを実施し、さまざまなご意見をいただきました。

これらの意見をとりまとめ、懇話会の意見書として提出することになりましたので、新ビジョンの策定に活用されることを願います。

「これからの図書館のあり方について」懇話会  
会長 高 橋 昇

## 1 背景

平成8年6月、早良区百道浜に図書資料部門、文書資料部門及び映像資料部門の3部門で構成され、映像ホールなどを併設する新しい型の「福岡市総合図書館」として生まれ変わった。同時に、図書館サービス網の構築を図るために、各区市民センター図書室を「分館」と位置づけ、分館とネットワークを結ぶ「総合図書館オンラインシステム」を稼働した。

その後、「福岡市文学館」の開設や国際フィルムアーカイブ連盟への加盟、大学図書館との相互貸借や福岡都市圏の公共図書館等の広域利用など、さらに、インターネットや検索機による予約受付を開始するなど図書館サービスの充実を図ってきた。

このように、福岡市の図書館行政は、「福岡市新図書館基本計画」に基づいて推進されてきた。

分館についても、福岡市基本計画に基づき、地域交流センターの建設に合わせ、「博多南」、「和白」、「西部」と3館を整備してきたところである。

しかしながら、基本計画策定から約20年が経過するなか、社会情勢が大きく変わり、少子・高齢化社会の進行による自由時間の増加と国際化及び高度情報化の急激な進展などにより、市民の学習活動や文化活動はますます活発になっており、また学習領域や内容も多様化・高度化している。図書館は、これら市民のライフスタイルに応じた学習活動・文化活動を援助し、個性ある豊かな感性を培う場としての役割がますます重要となっている。

また、近年におけるインターネットの急速な普及やネットワーク整備などの情報化の進展は、資料・情報の収集や利用方法を大きく変化させている。一方、資料・情報の形態もこれまでの印刷媒体中心からインターネット等による電子媒体と組み合わせて利用するなど多様化している。情報提供の技術・方法も高度に進展し、電子化された書誌情報からの検索や各専門機関のデータベースからのインターネット利用など、多様な資料・情報へのアクセスの可能性は飛躍的に広がっている。

さらに、今日の厳しい行財政状況から図書資料の購入費や図書館職員の人員削減が行われる中で、市民のニーズはさらに多様化・高度化しており、なお一層の効率的・効果的な図書館サービスが求められている。

このように、社会状況の変化に対応した図書館サービスの充実には、管理・運営など図書館のあり方が求められている。

## 2 福岡市図書館の課題

福岡市の図書館行政は、平成3年に策定された『福岡市新図書館基本計画』に基づいて推進されてきた。

しかしながら、総合図書館が開館して一定の時間が経過し、社会状況が大きく変わっている。図書館を巡る環境が情報化の急速な進展、図書館サービスに対する市民ニーズも高度化、多様化するなど大きく変化しているにも関わらず、これまで、基本計画の点検、見直しが行われていない。

今回、新ビジョン策定の前段として懇話会が設置され、各分野、各方面からの意見・要望を述べる機会ができたことは歓迎するものである。

これまで、福岡市の図書館は「基本計画」の基本方針に基づいて、福岡都市圏の公共図書館等の広域利用や大学図書館との相互貸借、インターネットや検索機による予約受付を開始するなど図書館サービスの充実を図ってきたところであるが、あらゆる点で課題が出てきているのが現状であろう。このため、図書館を取り巻く環境の変化を十分に踏まえながら、これまでの取り組みの方向を改めて整理することが重要である。

### (1) 施設

福岡市の図書館は、図書館システム全体を統括する中枢的機能を担う総合図書館と各区市民センター内分館、地域交流センター内分館合わせて11館により図書館サービスを行っているが、その他に図書資料の貸出、返却が出来る施設は限られており、利用者からは図書の貸出・返却がもっと身近なところで出来る施設設置の要望が寄せられている。

また、他の政令市と比較して、図書館数が少ない(対人口比)状況にあり、さらに分館の平均床面積についても、政令市の中で一番小さい(P20「政令指定都市の図書館配置状況」を参照)。分館の整備については、福岡市の政策推進プランで地域交流センターの整備にあわせて設置することになっているため、現在の分館化計画では、人口比割合の向上は困難である。

総合図書館と各分館の利用状況は、総合図書館、分館から離れた地域に住む市民の図書館利用率は極端に低く、地域格差の解消が課題となっている。

### (2) 運営体制

図書館運営について、今般、指定管理者制度などを導入する図書館が出てきているが、総合図書館では、市直営を基本として、これまで図書館業務システムの整備をはじめ、総合図書館窓口業務や配本車運行業務を民間委託するなど効率的な運営を図り、市民の要望に応じた各種サービスを提供している。

しかしながら、総合図書館と各分館のサービスを比較すると、平日と土曜日の閉館時間が総合図書館では19時、分館では18時で、また、映像資料の貸し出しは総合図書館のみに限られ、分館では実施していないなどの格差が生じている。

さらに、開館時間の延長や各館の閉館日を変更するなどサービスの拡大・変更を求める要望が多い。

職員の配置では、読書相談員の業務が貸出・返却・予約などが中心で、本来の司書としてのレファレンス等の専門性が発揮できない現状にある。

### (3) 予算の規模

厳しい財政状況から、福岡市政全般に人員と経費の削減が求められ、図書資料費についても、平成17年度を境に大幅に減少している中で（P22「政令指定都市の資料費の予算額の推移」を参照）、地域や住民の問題解決に向けた取組に必要な資料や情報を提供するなど、課題解決型のサービス機能を充実することが求められている。

また、限られた予算の中、より効果的な資料の収集を図るため、選書に当たる職員の幅広い分野にまたがる知識の習得、情報収集能力、市民ニーズを的確に把握する能力などが求められる。

### (4) 図書館を取り巻く環境の変化

近年の公共図書館では図書館サービスが貸出重視から調査研究への支援やレファレンスサービスなどに移行している中で、福岡市の図書館においてはレファレンスサービスの認知度が低い。

また、情報化の進展に伴い、インターネット等の普及が著しいが、利用者からも図書館にインターネットを利用したサービスが求められるようになった。これからは紙媒体の資料だけでなく、インターネット等による電子媒体を組み合わせた情報を提供できるサービスが求められる。

最近では多くの資料が電子書籍として出版されており、公共図書館でも、これらを収集・提供する図書館が現れていることから、福岡市の図書館においても電子書籍の方向性について検討する必要がある。

映像資料の貸出においては、再生機器等の技術革新により、従来の映像・音響資料が各家庭で利用できなくなり、運営の継続について検討する必要がある。

### (5) 学校図書館への支援

学校図書館への支援について、他の政令指定都市や福岡県内の市町立図書館では学校図書館への支援が積極的に行われているが、福岡市の場合は学校図書館への支援が確立されておらず、他都市から大きく遅れている現状である。子どもの読書活動や調べ学習をするうえで、学校図書館が果たす役割はとて大きいことから福岡市の図書館においても、子どもたちの学校図書館の活用が進むよう学校図書館への支援を積極的に行う必要がある。

ただし、学校図書館と公共図書館の連携を有効に行うためには、学校図書館の活性化が不可欠である。

### 3 アンケート調査から見てきた課題

#### 1. 図書館の利用状況について

市民アンケート調査によると、図書館の利用状況は「ほとんど利用しない」と「利用したことがない」が63.8%を占めており、本を読みたい時は「書店・コンビニ、通信販売」が76.3%と圧倒的に多く、「公立図書館の利用」が17.0%である。

一方、図書館利用者アンケート調査では、本を読みたい時は「公立図書館の利用」が81.0%で、「書店・コンビニ、通信販売」が14.7%と、市民アンケート調査と逆転現象が起こっており、図書館を利用する人はするが、しない人はしない、と二極化していることが分かる。

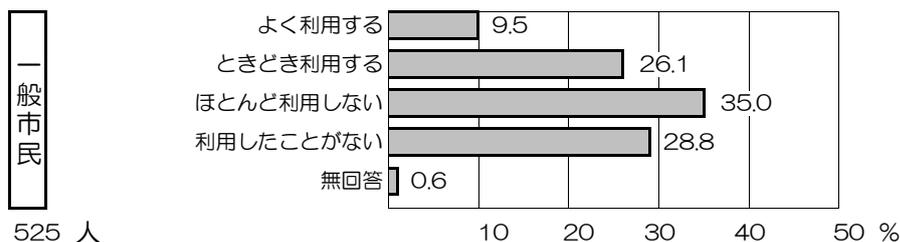
図書館利用の多寡の理由として考えられるのが、図書館への距離である。主に利用している図書館について、その図書館を利用している理由を尋ねたところ、「自宅から近いから」と回答した人が、一般市民アンケートでは60.4%、図書館利用者アンケートでは70.7%である。

さらに、一般市民アンケートでは、図書館を利用しない理由で「距離が遠い（35.8%）」「利用したい時間に関いていない（9.9%）」、何分圏内に図書館があれば利用するかは「10分圏内（60.0%）」「20分圏内（35.0%）」との回答がみられた。

図書の貸出・返却のサービスポイントを利用者の視点に立って配置するとともに、その利用時間についても検討することが必要である。また、自由回答で「図書館の場所が分からない」という意見もみられ、知の拠点施設としての図書館サービス全般の認知度を高める必要がある。

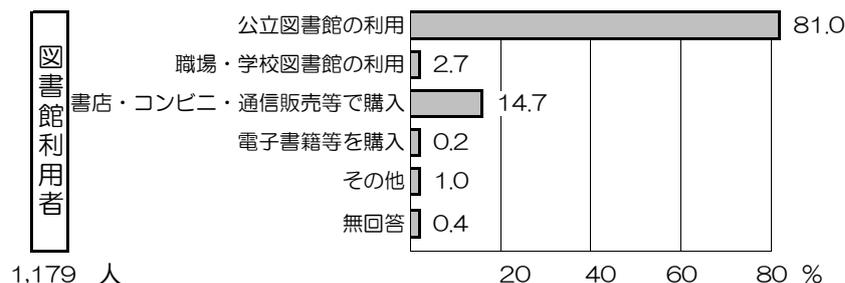
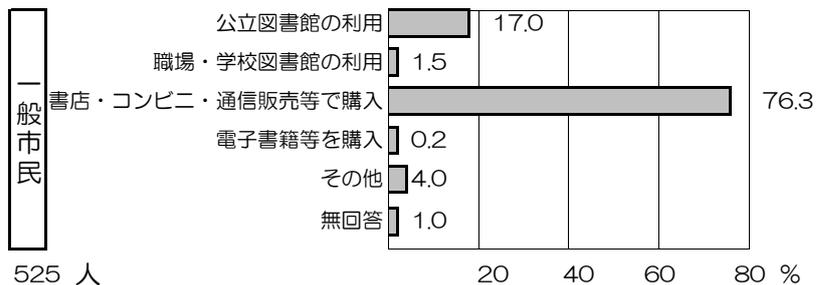
#### (1) 図書館を利用したことがあるか

図：図書館の利用状況



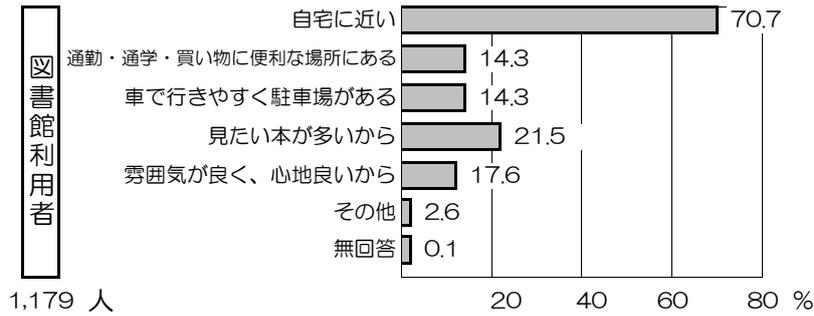
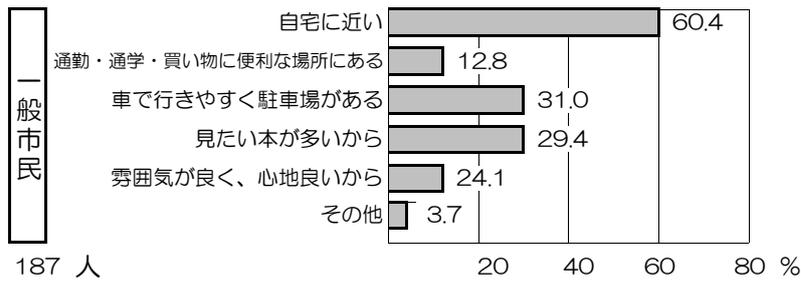
#### (2) 本を読みたいときの主な行動

図：本を読みたいときの主な行動



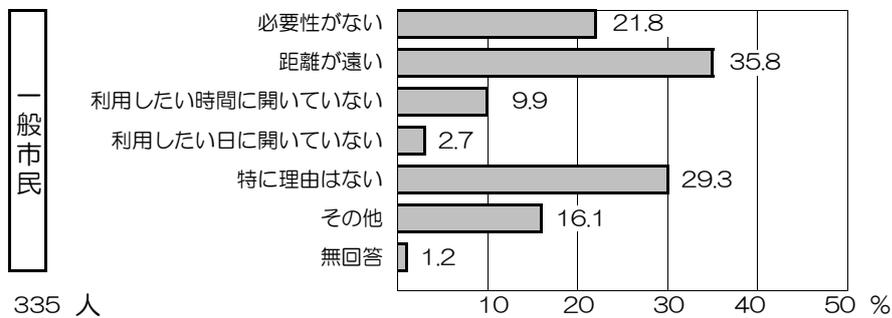
### (3) 図書館を利用している理由

図：利用する理由



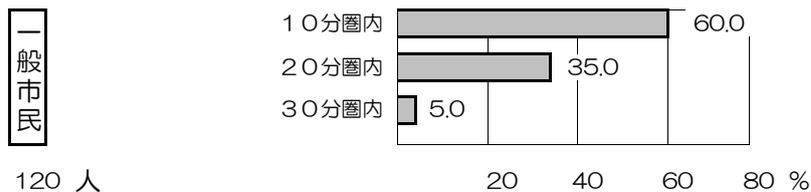
### (4) 図書館を利用しない理由は何ですか

図：図書館を利用しない理由



### (5) (4)で距離が遠いと回答した方へお尋ね 自宅から何分圏内に図書館が利用しますか

図：図書館までの所要時間



## 2. 図書館サービスについて

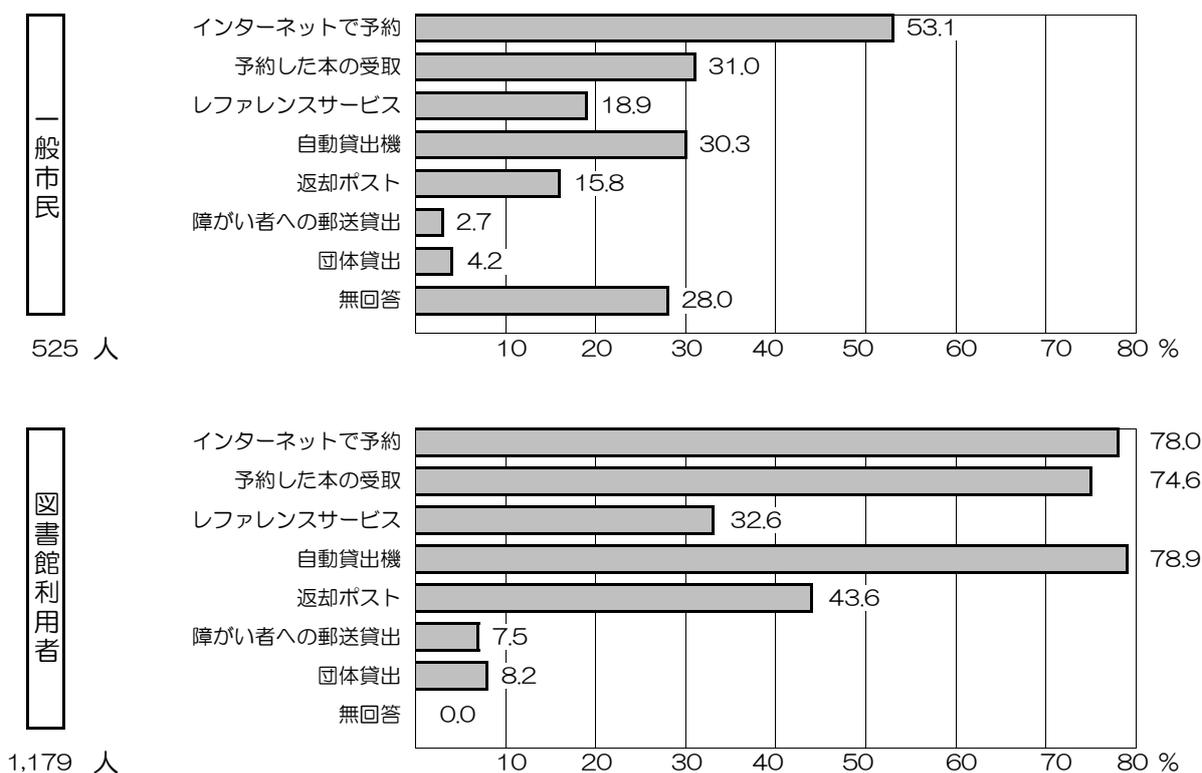
市民アンケート調査では、知っている図書館サービスは、「インターネットで予約できる」が53.1%で「予約した本が受けとる館が指定できる」が31.0%で「自動貸出機を使って自分で手続きができる」が30.3%と多い順になっている。図書館利用者アンケート調査でも同様な結果が出ている。

しかしながら、レファレンス・サービスや返却ポストの認知度が低いなどサービス内容の認知度にばらつきがあるため、さらなる情報の発信が必要である。

また、総合図書館の特色でもある映像ホール・シネラや文書資料部門の認知度の低さも今回のアンケート調査で明らかになった。特に、蓄積された郷土の資料は、それぞれの公共図書館の特色であり、顔でもあることから、その有効な活用が必要である。

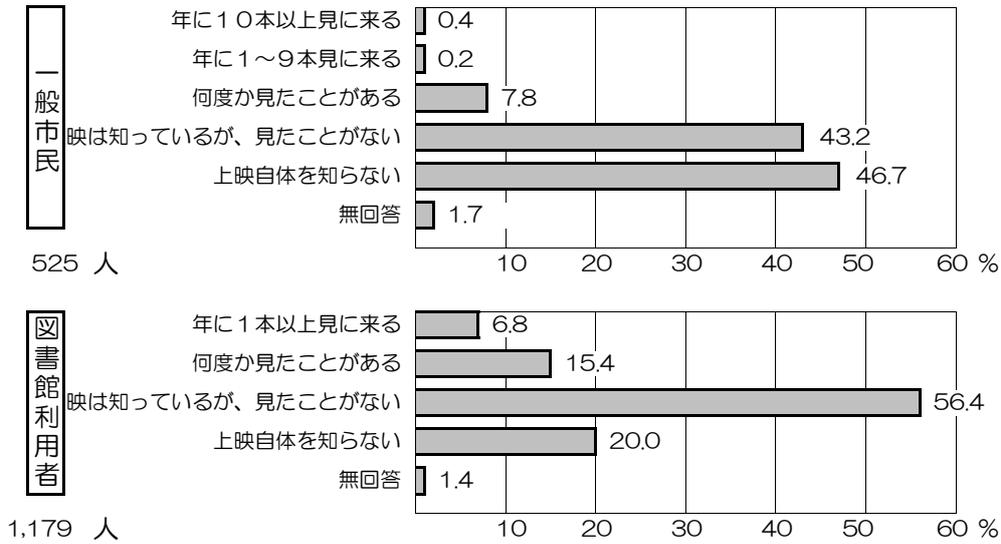
### (1) 図書館サービスで知っているものは

図：図書館サービスの認知度



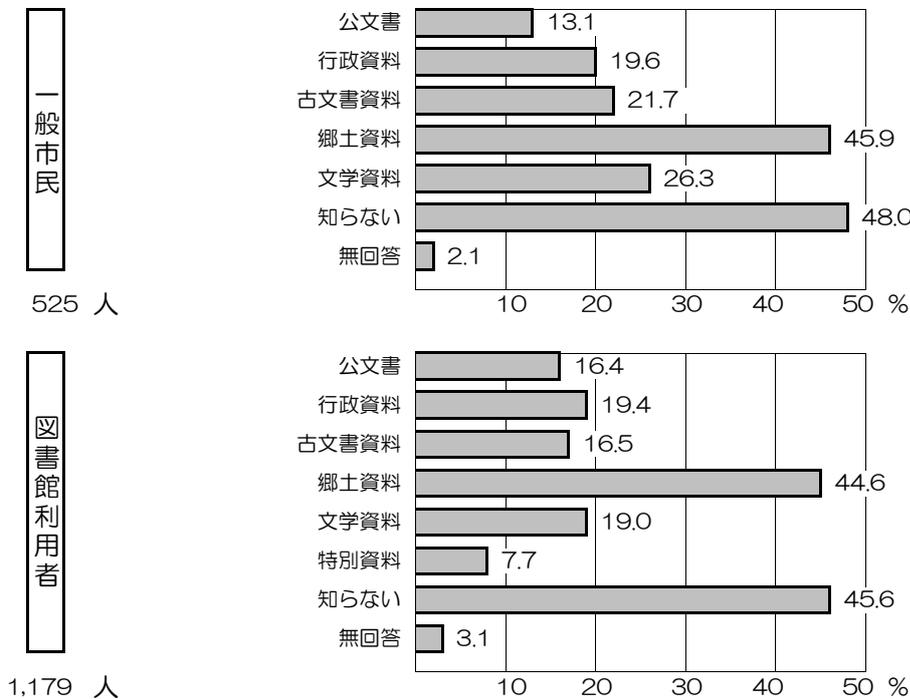
## (2) 映像ホール・シネラ

図：総合図書館映像ホール・シネラで映画を見たことがあるか



## (3) 歴史的・文化的価値を有する文書資料

図：総合図書館で収集・保存している文書資料を知っているか



### 3. 資料の収集・保存について

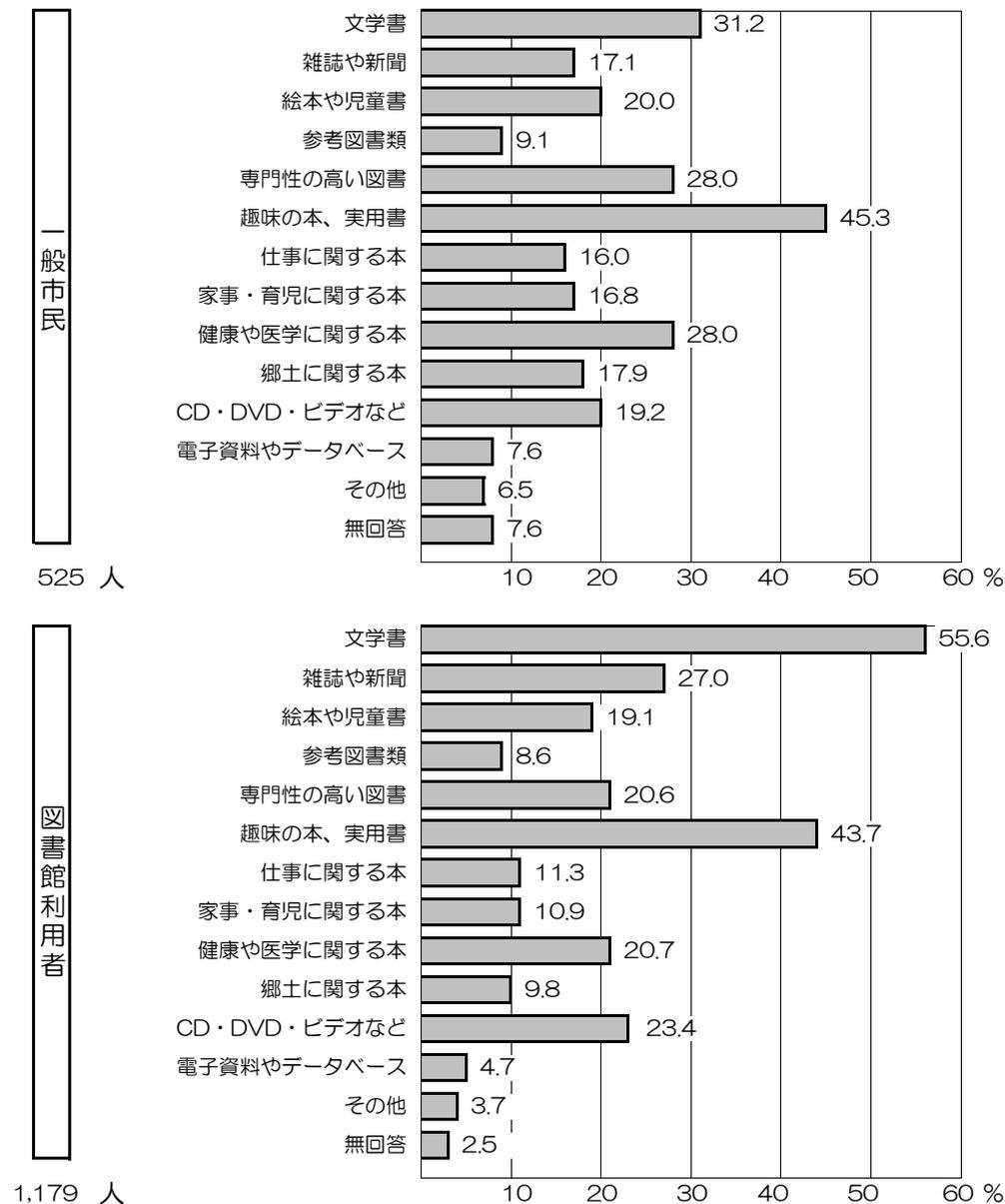
市民アンケート調査で充実して欲しい資料として、「趣味の本、実用書」が45.3%、「文学書（小説やエッセイ）」が31.2%、「専門性の高い図書」が28.0%、「健康や医学に関する本」が28.0%となっている。

図書館利用者アンケート調査では、「文学書（小説やエッセイ）」が55.6%、「趣味の本、実用書」が43.7%、「雑誌や新聞」が27.0%、「CD・DVD・ビデオなど」が23.4%の順になっている。

共通した意見として、新刊書や逐次刊行物を増やして欲しいとの要望が最も多い。

図書の選定では、分館も含め必要以上に同一タイトルを購入せず、できるだけ多くのタイトルを収集する仕組みづくりが必要である。また、総合図書館では、公共図書館としては有数の専門書を所蔵しているが、資料費の減少や図書単価の高騰により幅広い収集が困難になってきており、専門図書館との連携を強化する必要がある。

図；充実して欲しい資料等



## 4 これからの図書館の方向性

懇話会やアンケートの意見等を取りまとめるにあたり、単に社会情勢の変化に対応するだけでなく、来館者のニーズを的確に把握するとともに、図書館を取り巻く背景を踏まえることが重要である。

このため、以下の6項目に整理するとともに、今後の図書館のあり方について方向性を示し、それに沿って新しく策定されるビジョンに反映されたい。

### (1) 幅広い資料・情報の収集・保存

市民の幅広い知的欲求に応えるため、市民の読書を支援するだけでなく、地域の住民の課題解決を支援する機能の充実が求められる。

そのためには、総合図書館と分館が連携しながら資料を効率よく収集するとともに、限られた予算の中で、より効果的な資料の収集を図るため、選書を担当する職員の幅広い分野の知識の習得、情報収集能力などの向上に力を入れる必要がある。

また、紙媒体とインターネット、各種データベース等の電子媒体の活用によって予算の効率化を図ること。

### (2) 市民が利用しやすい環境づくり

福岡市の図書館は、全ての市民が利用しやすい図書館を目指して様々なサービスを展開してきたが、利用者は一定の割合にとどまっているのが現状である。

市民の多くが利用しやすい環境をつくるには、開館時間延長の検討や各館の閉館日の見直しを図るとともに、図書館に行きたくても行けない高齢者や乳幼児連れの人、遠方在住者など来館が困難な人への対応が必要である。また、図書館の利益供与を受ける地域と受けない地域との格差が生じているため、格差解消が課題となっている。

このため、「ユニバーサルシティ福岡」の視点に立って、今後は館（ハコもの）だけでなく、貸出・返却ポイントの設置や移動図書館などの図書館サービスを提供し格差の縮小を図ることが望まれる。

その他、図書館が行っている様々なサービスが市民に知られていないため、図書館ホームページや市政だよりなどを活用して、お話し会や各種サービスの内容などを発信して広報に努めるとともに、地域で活動している地域文庫をより多くの人が利用できるように周知に努めること。

### (3) 環境の変化に対応する利用者サービスの充実

『これからの図書館像』では、これからの図書館には、「住民の読書を支援するだけでなく、地域の課題解決に向けた取り組みに必要な資料や情報を提供するなど、地域や住民の課題解決を支援する機能の充実が求められる」としている。

また、インターネットの普及により、一般的な情報は利用者自身で調査できるようになり、レファレンス件数はここ数年減少傾向にある。その反面、利用者の情報リテラシー（情報を使いこなす能力）では調査できない、広範囲で高度な内容の情報が図書館に求められる傾向にある。

このため、今後は、貸出サービスからレファレンスサービスに重点をおいた体制が必要であり、レファレンスを担当する職員の育成に努めること。

#### (4) 情報化の進展に対応したサービスの向上

情報化の急速な進展に伴い、住民生活にもインターネット等を利用したサービスが普及している。図書館でも情報を検索する手段としてインターネットを利用する機会が増えることが見込まれる。

また、これまでの紙資料による提供だけでなく、インターネット等による電子媒体を組み合わせ利用できる図書館（ハイブリッド図書館）を目指すことが課題となっている。

これからの図書館では、パソコンルームの増設、無線LANの導入、商用データベースの充実など求められるであろう。特に図書館ホームページにアクセスすれば利用者が求める情報・資料はこのホームページを利用すれば良いとか、体系的なリンク集を整理するようなサービスに努めること。

また、郷土資料や古文書資料など劣化しやすい資料のデジタルデータ化も検討が必要である。

#### (5) 地域と連携した子どもの読書活動の推進

読書が子どもの人格形成に果たす役割は極めて大きく、特に、就学前の乳幼児は子どもの読書習慣が保護者に委ねられているのが現状である。子どもを育てる大人自信が本を読まずにインターネットなどのメディア漬けになっている状況が子どもの読書活動に少なからず影響を与えている。

このため、「福岡市子ども読書活動推進計画（第2次）」では、家庭の役割の重要性を改めて認識し、子どもがいつでも本とふれあうことのできる環境づくりが進められている。総合図書館においても、この計画を支援・協力するとともに子供プラザへの団体貸出や公民館等の地域貸出文庫増設をはじめとして子育て世代が利用しやすい環境を整えるよう検討されたい。

また、児童生徒が一日の大半を過ごしている学校において、学校図書館は児童生徒にとって一番身近な図書館であるため、近年、学校図書館を支援する公共図書館が顕著に多くなってきている。福岡市においても早急に学校図書館を支援する体制を検討されたい。

具体的には、学校図書館への長期的な図書資料の貸出サービスはもとより、司書教諭、学校図書館司書、学校図書館ボランティアへのレファレンスサービスや研修への支援などを行うとともに、児童の「小学生読書リーダーの養成」の支援に努めること。

#### (6) 映像資料・郷土資料・福岡文学資料など特色のある資料の収集・保存等

映像資料はアジア映画を中心に収集されているが、他の公共図書館では類がない貴重なものであり、今後さらに充実されたい。

ビデオ・CD・DVDの収集については、再生機器等の技術革新などによって現在貸出を行っている映像資料・音響資料が各家庭で利用が困難になっており、また、媒体の変化が著しく先行きが不透明な状況であり、今後の資料の収集方法や貸出の継続について検討されたい。

郷土資料など、地域に根ざした文書資料の収集・保存は、公共図書館の責務である。福岡市にしかない貴重な資料の保存と活用の両立を図るため、複製資料（マイクロフィルム、複製本、デジタルデータ）の作成を進めるとともに、市民の利用を一層促進する方策を検討されたい。

また、福岡市文学館については、福岡ゆかりの文学者の顕彰と幅広い資料収集・保存はもとより、現在、分散している展示室を一体的に展示できるスペースを確保するなど、より一層市民に認知される文学館のあり方を検討されたい。

## 参考資料1

### 福岡市総合図書館の基本方針（平成3年策定の基本計画より）

#### I 基本方針

新図書館は、図書、映像及び文書資料の3部門で構成する新しい型の総合図書館として21世紀における、魅力ある学習・情報・文化の拠点施設をめざし、福岡市の文化的基盤を一層充実させ、文化の発信力を高めていく。また、市民に開かれた図書館として、市民ニーズに的確に応える生涯学習社会の中核的役割を果たしていく。

#### 1 市民が楽しみながら、学び、交流する生涯学習の場、豊かな感性を培う場

幼児から高齢者まで全ての市民のライフスタイルに応じた様々な知的欲求に応える生涯学習の場、豊かな感性を培う場としての役割を担っていく。また、市民が気軽に学習・文化に親しめる雰囲気づくりを進めるとともに、様々な学習・文化活動を軸として市民が幅広く出会い、ふれあい、楽しみながら学ぶ広場、文化的なサロンを形成していく。

#### 2 幅広い豊富な資料・情報を備え、高度で多様な資料・情報提供の場

国内外の資料の収集・整備を図るとともに、市内外の各種図書館・類縁機関等との連携・相互協力により情報収集を行い、閲覧・貸出等の提供機能を充実・強化し、九州の図書館等のネットワークの中核となる総合図書館をめざす。

#### 3 特にアジアを中心とする資料・情報の収集・提供機能を有する場

地理的・歴史的にかかわりが深い近隣のアジア諸国及び姉妹都市・友好都市の資料・情報を収集し、市民が外国を知り、理解するための資料・情報を提供する。さらに、在住外国人や留学生等のために自国や他国の資料・情報や日本の文化・生活に関する情報などを提供する。

#### 4 地域文化の継承に資する保存センター

歴史的・文化的に価値ある記録された資料・情報を「人類の記憶の源泉」として保存し、後世に伝える。

#### 5 多様なニューメディアを活用した映像メディアセンター

日常的に利用している情報の中には、従来の印刷物を主体とする図書・雑誌などの活字メディアだけでなく、ビデオテープ、CD、CD-ROM等、種々のニューメディアが増大している。このような社会状況を反映して、様々な形態の資料・情報を積極的に収集・管理・提供していく。

#### 6 新しい時代に対応する調査・研究開発機能を持つ施設

広く地域文化の高揚に寄与するための調査・研究を行う。また、データベースの充実を図るために必要な調査・研究、利用実態調査等の実施なども行う。

#### 7 地域文化情報ネットワークの主要拠点

新図書館と各市民センター図書室等を情報通信網で結び、データベースを構築することにより、相互のリアルタイムによる資料・情報の検索、貸出・返却の迅速化、蔵書目録の作成等を行う。また、県立図書館、福岡市美術館、博物館等ともネットワーク化を図り、地域文化情報を中心に相互利用を図る。

#### 8 高度に有機的に装備されたインテリジェント・ライブラリー

コンピュータ、光通信、ハイビジョンなど最先端の技術を導入するとともに、構内電話、データ通信、映像電送などをはじめ、冷暖房、エネルギー管理、環境制御、業務管理などインテリジェント化を図る。

## 参考資料2

### 福岡市の図書館のあり方への意見等

#### (1) 幅広い資料・情報の収集・保存

- ・ 各省庁等のインターネットで公開されている統計資料等は、高額な資料は購入せずネットを活用するなどできないか。
- ・ リクエストの多い本を多数購入するより、市民がなかなか買えない貴重な資料を収集していくこと。
- ・ 収集方針をホームページで広報し、市民から意見等を聞きながら調整してはどうか。
- ・ 総合図書館や分館の資料購入にあたっては、選書担当職員の研修や情報の共有を行い、購入決定にあたっては、総合図書館が中心となって行って欲しい。
- ・ 予算が厳しいのであれば、1タイトル25件のリクエストで1冊購入する基準を見直したらどうか。
- ・ ビデオ・DVD・CDの種類が古いし少ない、もっと増やして欲しい。
- ・ 分館でもビデオ・DVD・CDを貸出して欲しい。
- ・ 九州・圏内の歴史・郷土資料を充実して欲しい。
- ・ 古い貴重な資料については、複製本やマイクロフィルムの活用を図る。
- ・ 福岡ゆかりの文学者などを顕彰し、市民への周知を図るために幅広い分野の資料を収集し、福岡市文学館の拡充をするべきである。
- ・ ギャラリーなどでの貴重な資料の展示については、博物館や美術館のように、専用の照明や展示ケースを使用するなど、展示環境に配慮して欲しい。

#### (2) 市民が利用しやすい環境づくり

- ・ リクエスト本は1週間の取り置き期間を含めると、1人でその本を3週間、専用しているため回転率が悪い。
- ・ 利便性の良い場所に、リクエストの貸出が出来るスポットが設置できないか。
- ・ 本の取扱いのマナー向上につながるメッセージの発信（中学生に対しての働きかけ）。
- ・ マナー向上のチラシを視覚で訴えるような子どもでも分かるような工夫が欲しい。
- ・ 図書返却時に汚損等のチェック体制の強化
- ・ 図書館が行っているサービスをもっとPRして欲しい
- ・ 返却日をメールで知らせてもらえるようなサービスをして欲しい
- ・ ギャラリーなど文学館の展示は、1箇所に集約し、展示資料の説明をするスタッフを置くなど市民にわかりやすい展示活動を行うべきである。

### (3) 環境の変化に対応する利用者サービスの充実

- ・ 週に1日だけでも、分館の開館時間を8時まで延長して欲しい
- ・ すべての図書館が一律に月曜日休館ではなく、バランスの取れた開館を実施して欲しい。
- ・ 空きスペースの有効活用や配置換えを検討して欲しい。
- ・ 返却日をメールで知らせてもらえるようなサービスをして欲しい
- ・ 総合図書館と分館の格差が著しい。(床面積、蔵書数など)
- ・ 移動図書館の活用を検討して欲しい
- ・ 大学図書館等が所有している資料を、相互貸借制度を使い市民の方に提供できることを周知していく

### (4) 情報化の進展に対応したサービスの向上

- ・ ホームページに資料、情報等を見ることができるリンク集を体系的に整理し見やすくする。
- ・ 携帯電話やスマートフォンによる、蔵書検索や予約への対応をして欲しい。

### (5) 子どもの読書活動の推進

- ・ 公共図書館に子どもが読みたい本をもっと充実して欲しい
- ・ 子どもが本に触れあい、読書のおもしろさや読書の深みに導くことも図書館の大事な仕事
- ・ 子どもが本に触れあい、読書のおもしろさや読書の深みに導くことも図書館の大事な仕事 ★上記の文章が重複しています★

「これからの図書館のあり方について」懇話会委員名簿

委嘱区分	氏 名	役 職 名	備 考
学識経験者	たかはし のぼる 高橋 昇	九州女子大学教授	
	たさか だいぞう 田坂 大藏	市博物館顧問	
	わきかわ ふみや 脇川 郁也	詩人、文芸誌「季刊午前」編集同人	添島 郁孝
	にしたに かおる 西谷 郁	熊本県立大学非常勤講師	
社会教育関係	かたおか ていこ 片岡 貞子	福岡おはなしの会	
	かわかみ あけみ 川上 明美	福浜公民館ふくふく文庫	
	うえむら あつこ 上村 篤子	学校図書館ボランティア	
学校関係	やまもと ふみえ 山本 富美江	中学校図書館教育研究会副会長	
	おとふじ さちこ 音藤 幸子	壱岐中・壱岐東小学校図書館司書	
公募委員	みたに なおや 三谷 直也	大学生	
	たなか くみ 田中 久美	専業主婦	

「これからの図書館のあり方について」懇話会 開催経過

日 時	会 議 名	会 議 内 容	備 考
平成23年9月29日(木)	第1回 懇話会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員紹介</li> <li>・会長、副会長の選任</li> <li>・福岡市図書館の現状の説明</li> <li>・アンケート調査の説明</li> </ul>	
平成23年 12月16日(金)	第2回 懇話会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果の報告</li> <li>・現状と課題について意見交換</li> </ul>	
平成24年2月15日(水)	第3回 懇話会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状と課題について意見交換</li> </ul>	
平成24年3月14日(水)	第4回 懇話会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状と課題について意見交換</li> </ul>	
平成24年5月31日(金)	第5回 懇話会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な取りまとめ</li> <li>・「意見書」(案)について意見交換</li> </ul>	

附 属 資 料

「これからの図書館のあり方」懇話会

平成23年9月29日

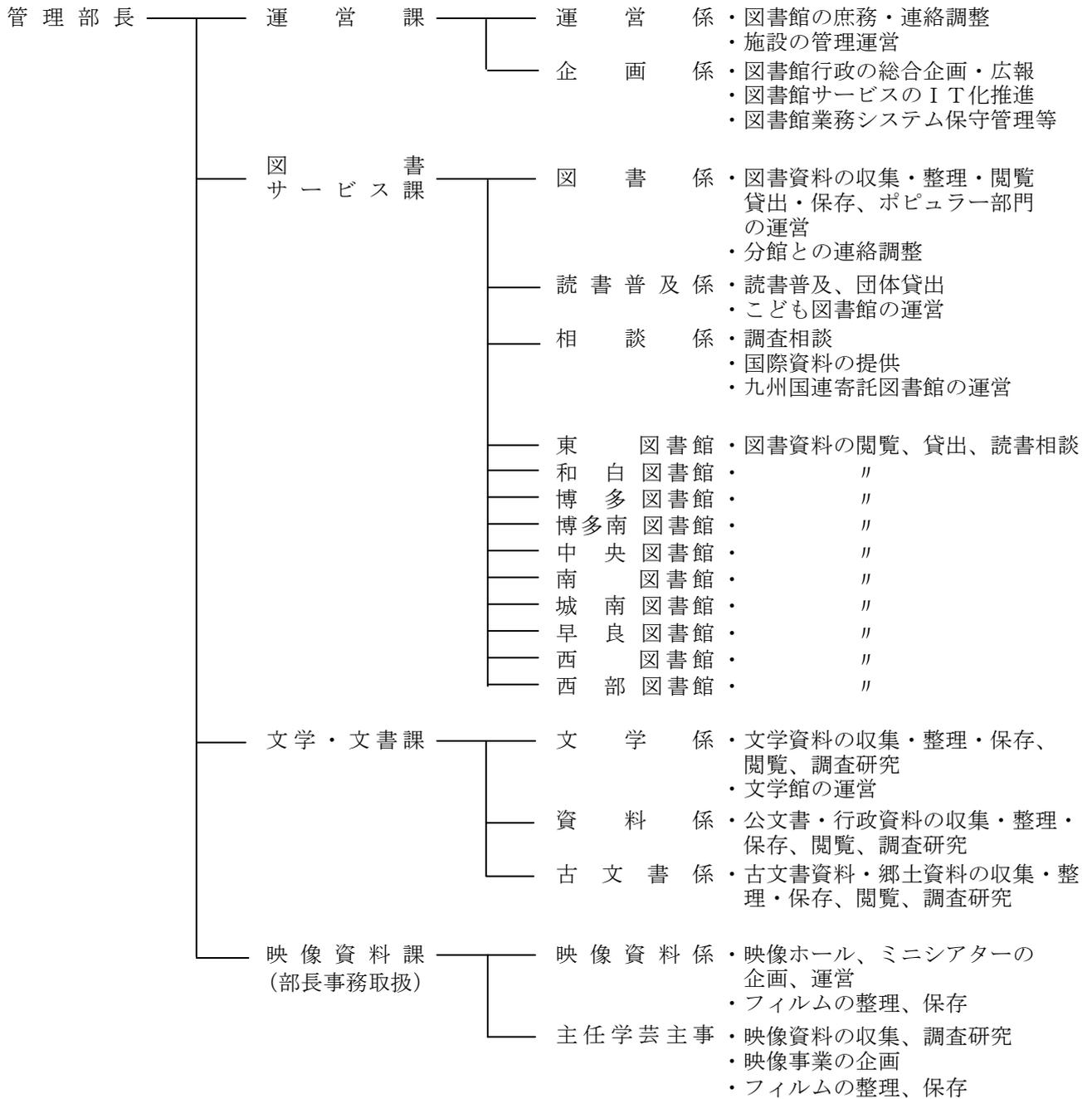
福岡市総合図書館

○ 組織図及び分掌事務

(平成24年5月1日現在)

館 長

副 館 長 (管理部長事務代理)



(2) 職員配置

(単位:人)

区 分	総合図書館	分 館	合 計
一般職員	34 (8)	0 (0)	34 (8)
嘱託職員	37 (28)	63 (54)	100 (82)
合 計	71 (36)	63 (54)	134 (90)

※ ( )内は、司書資格者数を再掲

○ 総合図書館 事業別予算の推移

(単位:千円)

事業名		平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度
管理運営費	一般管理費	163,837	169,276	177,683	178,564	48,249	133,626
	施設管理費	254,786	259,077	257,150	266,995	288,958	378,510
	分館運営費	231,637	223,714	208,316	196,694	186,445	193,952
		南区分	南区分	南区分	南区分		
		688	617	523	503	-	-
	全国公共図書館 研究会開催経費	400	-	-	-	-	-
	施設整備公社 委託事務費	85	-	-	-	-	-
	業務システム再構築	-	-	-	-	111,874	135,000
	業務システム再構築	-	-	-	-	30,723	-
	検索システム運用経費	-	-	-	-	10,383	11,663
小計	651,433	652,684	643,672	642,756	676,632	852,751	
主催事業	講座等経費	1,523	1,737	1,980	2,203	2,767	2,610
	映像企画事業等経費	1,565	1,692	1,880	2,088	2,320	2,578
	図書館地区別研修	-	-	-	1,100	-	-
	小計	3,088	3,429	3,860	5,391	5,087	5,188
資料収集経費	図書購入費	99,136	104,352	110,332	118,656	138,547	157,607
	映像資料購入費	3,954	4,393	4,881	4,881	4,881	7,172
	図書整理費	35,313	36,362	40,409	45,105	45,686	47,164
	文書資料整理等経費	35,165	36,407	37,142	38,055	37,201	34,988
	映像資料整理等経費 (緊急雇用対策分)	-	-	7,300	2,236	2,512	3,304
	資料整理費等	70,478	72,769	84,851	85,396	85,399	85,456
	収集保存等経費	12,172	12,515	13,039	13,172	13,563	14,001
	小計	185,740	194,029	213,103	222,105	242,390	264,236
図書利用 サービス費	一般利用サービス費	161,449	163,925	176,261	182,050	163,990	94,568
	(緊急雇用対策)	-	16,552	-	-	-	-
	団体貸出運営費	2,614	2,642	3,175	3,398	3,123	2,943
	子ども図書館運営費	530	588	654	529	612	666
	予約システム運用経費	-	-	-	-	7,055	-
	小計	164,593	183,707	180,090	185,977	174,780	98,177
国連寄託図書館運営費	9,302	9,260	9,304	9,084	9,235	9,564	
文学館費	文学館管理運営費	11,887	12,185	12,569	12,945	13,553	8,697
	文学館事業費	2,243	2,492	2,783	3,092	3,865	9,254
	(緊急雇用対策)	-	-	13,204	-	-	-
	小計	14,130	14,677	28,556	16,037	17,418	17,951
施設整備費	総合図書館	-	-	-	-	-	2,521
	図書館分館整備	46,518	84,256	204,666	41,340	162,359	2,879
	建築物定期点検	-	-	-	-	-	922
	小計	46,518	84,256	204,666	41,340	162,359	6,322
事業費合計	1,074,804	1,125,490	1,283,251	1,122,690	1,287,901	1,254,189	
給与費	337,667	364,218	419,248	447,089	465,925	478,273	
図書館費合計	1,412,471	1,489,708	1,702,499	1,569,779	1,753,826	1,732,462	

○18政令指定都市の図書館配置状況((社)日本図書館協会資料より)

都市名	市の概況				延べ床面積	中央館(本館)			分館の平均床面積				
	奉仕人口	区数	図書館数	順位		順位	床面積	順位	館数	最大	最小	平均	順位
札幌市	1,885 千人	10	10	15	20,192 m <sup>2</sup>	10	9,049 m <sup>2</sup>	7	9	1,514 m <sup>2</sup>	1,159 m <sup>2</sup>	1,238 m <sup>2</sup>	7
仙台市	1,007 千人	5	7	18	19,548 m <sup>2</sup>	13	3,750 m <sup>2</sup>	16	6	6,979 m <sup>2</sup>	600 m <sup>2</sup>	2,633 m <sup>2</sup>	1
さいたま市	1,199 千人	10	23	2	35,042 m <sup>2</sup>	5	5,831 m <sup>2</sup>	11	22	3,521 m <sup>2</sup>	227 m <sup>2</sup>	1,328 m <sup>2</sup>	6
千葉市	926 千人	6	14	9	24,033 m <sup>2</sup>	7	10,275 m <sup>2</sup>	5	13	2,800 m <sup>2</sup>	196 m <sup>2</sup>	1,058 m <sup>2</sup>	9
横浜市	3,606 千人	18	18	5	55,514 m <sup>2</sup>	2	21,834 m <sup>2</sup>	3	17	3,386 m <sup>2</sup>	1,502 m <sup>2</sup>	1,981 m <sup>2</sup>	2
川崎市	1,359 千人	7	12	11	12,538 m <sup>2</sup>	17	2,419 m <sup>2</sup>	17	11	2,196 m <sup>2</sup>	203 m <sup>2</sup>	920 m <sup>2</sup>	12
新潟市	803 千人	8	18	5	22,589 m <sup>2</sup>	8	9,132 m <sup>2</sup>	6	17	2,357 m <sup>2</sup>	169 m <sup>2</sup>	792 m <sup>2</sup>	15
静岡市	719 千人	3	12	14	23,278 m <sup>2</sup>	9	5,343 m <sup>2</sup>	12	11	4,880 m <sup>2</sup>	756 m <sup>2</sup>	1,630 m <sup>2</sup>	3
浜松市	792 千人	7	21	3	36,106 m <sup>2</sup>	4	5,163 m <sup>2</sup>	13	20	6,535 m <sup>2</sup>	75 m <sup>2</sup>	1,547 m <sup>2</sup>	4
名古屋市	2,174 千人	16	20	4	38,118 m <sup>2</sup>	3	11,286 m <sup>2</sup>	4	19	4,639 m <sup>2</sup>	800 m <sup>2</sup>	1,412 m <sup>2</sup>	5
京都市	1,387 千人	11	17	7	15,461 m <sup>2</sup>	16	2,148 m <sup>2</sup>	18	16	2,622 m <sup>2</sup>	304 m <sup>2</sup>	832 m <sup>2</sup>	13
大阪市	2,525 千人	24	24	1	56,488 m <sup>2</sup>	1	34,533 m <sup>2</sup>	1	23	1,667 m <sup>2</sup>	599 m <sup>2</sup>	955 m <sup>2</sup>	11
堺市	836 千人	7	14	9	19,043 m <sup>2</sup>	11	4,635 m <sup>2</sup>	14	13	3,237 m <sup>2</sup>	83 m <sup>2</sup>	1,108 m <sup>2</sup>	8
神戸市	1,508 千人	9	11	11	17,337 m <sup>2</sup>	14	9,048 m <sup>2</sup>	8	10	1,122 m <sup>2</sup>	606 m <sup>2</sup>	829 m <sup>2</sup>	14
岡山市	687 千人	4	10	15	12,387 m <sup>2</sup>	18	6,416 m <sup>2</sup>	10	9	2,599 m <sup>2</sup>	40 m <sup>2</sup>	663 m <sup>2</sup>	17
広島市	1,154 千人	8	11	11	18,476 m <sup>2</sup>	12	7,966 m <sup>2</sup>	9	10	1,604 m <sup>2</sup>	656 m <sup>2</sup>	1,051 m <sup>2</sup>	10
北九州市	981 千人	7	17	7	16,008 m <sup>2</sup>	15	4,502 m <sup>2</sup>	15	16	2,015 m <sup>2</sup>	185 m <sup>2</sup>	719 m <sup>2</sup>	16
福岡市	1,385 千人	7	10	15	28,634 m <sup>2</sup>	6	24,121 m <sup>2</sup>	2	9	630 m <sup>2</sup>	335 m <sup>2</sup>	501 m <sup>2</sup>	18

※図書館数、施設の規模は、平成22年4月1日現在、奉仕人口は、平成21年3月31日現在

○18政令指定都市の蔵書数 ((社)日本図書館協会資料より)

都市名	市の概況				蔵書数		1人あたり蔵書数	
	人口	区数	図書館数	順位	蔵書数	順位	1人あたり蔵書数	順位
札幌市	1,885 千人	10	10	16	2,442 千冊	5	1.30 冊	15
仙台市	1,007 千人	5	7	18	1,769 千冊	14	1.76 冊	9
さいたま市	1,199 千人	10	23	2	3,267 千冊	3	2.72 冊	2
千葉市	926 千人	6	14	9	2,068 千冊	9	2.23 冊	4
横浜市	3,606 千人	18	18	5	4,023 千冊	1	1.12 冊	18
川崎市	1,359 千人	7	12	11	1,907 千冊	10	1.40 冊	13
新潟市	803 千人	8	18	5	1,695 千冊	16	2.11 冊	7
静岡市	719 千人	3	12	11	2,263 千冊	6	3.15 冊	1
浜松市	792 千人	7	21	3	2,117 千冊	7	2.67 冊	3
名古屋市	2,174 千人	16	20	4	3,079 千冊	4	1.42 冊	12
京都市	1,387 千人	11	17	7	1,751 千冊	15	1.26 冊	16
大阪市	2,525 千人	24	24	1	3,636 千冊	2	1.44 冊	11
堺市	836 千人	7	14	9	1,843 千冊	11	2.20 冊	6
神戸市	1,508 千人	9	11	13	1,843 千冊	11	1.22 冊	17
岡山市	687 千人	4	10	16	1,527 千冊	18	2.22 冊	5
広島市	1,154 千人	8	11	13	2,099 千冊	8	1.82 冊	8
北九州市	981 千人	7	17	7	1,674 千冊	17	1.71 冊	10
福岡市	1,385 千人	7	11	13	1,829 千冊	13	1.32 冊	14
平均	24,933 千人				40,832 千冊		1.64 冊	

○蔵書冊数の推移

館名		平成22年度 蔵書冊数	平成21年度 蔵書冊数	平成20年度 蔵書冊数	平成19年度 蔵書冊数	平成18年度 蔵書冊数
総合図書館		1,239,266 冊	1,219,245 冊	1,194,440 冊	1,167,192 冊	1,138,433 冊
分館	東図書館	61,761 冊	62,226 冊	63,696 冊	63,045 冊	61,168 冊
	博多図書館	70,104 冊	69,156 冊	69,479 冊	69,248 冊	68,735 冊
	中央図書館	63,434 冊	63,872 冊	63,358 冊	64,118 冊	63,988 冊
	南図書館	70,306 冊	70,326 冊	74,603 冊	71,530 冊	70,711 冊
	城南図書館	67,643 冊	67,848 冊	67,800 冊	66,942 冊	65,855 冊
	早良図書館	61,479 冊	61,309 冊	64,220 冊	64,126 冊	63,477 冊
	西図書館	61,925 冊	63,287 冊	66,218 冊	70,662 冊	71,773 冊
	和白図書館	76,284 冊	76,928 冊	75,532 冊	73,953 冊	70,288 冊
	博多南図書館	74,768 冊	74,964 冊	75,986 冊	79,011 冊	85,090 冊
	西部図書館	59,589 冊	- 冊	- 冊	- 冊	- 冊
	分館計	667,293 冊	609,916 冊	620,892 冊	622,635 冊	621,085 冊
	合計	1,906,559 冊	1,829,161 冊	1,815,332 冊	1,789,827 冊	1,759,518 冊

○貸出冊数の推移

館名		平成22年度 貸出冊数	平成21年度 貸出冊数	平成20年度 貸出冊数	平成19年度 貸出冊数	平成18年度 貸出冊数
総合図書館		1,823,189 冊	1,912,951 冊	1,889,808 冊	1,919,464 冊	1,900,382 冊
分館等	東図書館	315,083 冊	317,504 冊	307,933 冊	301,113 冊	312,893 冊
	博多図書館	221,635 冊	219,343 冊	226,852 冊	224,579 冊	215,278 冊
	中央図書館	362,782 冊	347,599 冊	320,877 冊	164,799 冊	301,124 冊
	南図書館	394,012 冊	396,824 冊	394,817 冊	399,876 冊	378,122 冊
	城南図書館	489,633 冊	494,316 冊	501,494 冊	503,242 冊	489,648 冊
	早良図書館	295,962 冊	293,286 冊	292,964 冊	273,210 冊	260,945 冊
	西図書館	421,715 冊	461,544 冊	457,539 冊	462,775 冊	456,731 冊
	和白図書館	298,379 冊	316,118 冊	327,788 冊	347,733 冊	360,717 冊
	博多南図書館	234,394 冊	246,373 冊	250,568 冊	262,832 冊	271,240 冊
	西部図書館	272,763 冊	- 冊	- 冊	- 冊	- 冊
	アマカス	96,697 冊	- 冊	- 冊	- 冊	- 冊
	分館等計	3,403,055 冊	3,092,907 冊	3,080,832 冊	2,940,159 冊	3,046,698 冊
合計	5,226,244 冊	5,005,858 冊	4,970,640 冊	4,859,623 冊	4,947,080 冊	

○政令指定都市の資料費の予算額の推移

(単位:千円)

番号	区分	22年度	21年度	20年度	19年度	18年度	17年度
1	札幌市	133,946	156,361	187,936	198,727	221,989	244,374
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	71	83	100	106	120	132
2	仙台市	145,520	151,704	149,432	152,070	149,063	165,272
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	145	151	149	152	150	166
3	さいたま市	241,387	266,529	285,081	300,087	305,838	328,934
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	201	224	242	256	263	284
4	千葉市	90,915	90,915	117,817	176,400	193,666	218,717
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	98	99	129	195	215	244
5	横浜市	209,086	233,620	258,930	283,657	310,337	338,244
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	58	65	73	80	88	97
6	川崎市	131,850	131,857	141,619	146,619	146,375	142,744
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	97	98	108	113	114	112
7	新潟市	228,743	178,851	195,466	204,439	275,146	277,096
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	285	222	243	254	342	358
8	相模原市	54,769	101,662	122,453	115,116	111,440	71,982
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	79	147	178	168	171	118
9	静岡市	192,183	244,408	256,697	200,266	217,905	203,698
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	267	344	361	281	305	290
10	浜松市	115,000	102,182	98,565	119,243	173,047	139,753
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	145	129	125	152	221	241
11	名古屋市	223,248	209,648	209,648	187,573	211,145	248,823
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	103	97	97	100	99	117
12	京都市	205,520	263,982	277,398	215,096	248,332	248,332
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	148	190	200	154	178	178
13	大阪市	236,453	266,549	287,803	300,856	295,903	320,353
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	94	106	115	120	119	128
14	堺市	95,452	95,090	87,122	76,954	76,548	109,447
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	114	114	105	93	92	132
15	神戸市	151,800	151,800	150,000	144,000	144,000	150,000
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	101	101	100	96	96	101
16	岡山市	116,000	121,000	126,301	129,350	129,700	137,862
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	169	176	185	190	198	210
17	広島市	179,377	169,001	153,329	118,167	118,356	117,795
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	155	147	134	104	104	105
18	北九州市	147,728	147,728	147,728	148,132	170,274	144,000
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	151	150	150	150	172	145
19	福岡市	104,352	110,332	118,656	138,547	158,135	201,658
	市民1人当たりの 図書購入費(円)	75	80	87	102	118	152

\*日本の図書館 統計と名簿より掲載

\*図書館資料費は図書、雑誌新聞、視聴覚資料、その他図書館資料の購入に要する経費

○文書資料部門の活動及び実績

(1) 資料の収集状況(平成23年3月31日現在)

資料内容	公文書	行政資料	古文書資料	郷土資料	文学資料
冊・点数	29,150冊	41,520冊	60,671点	93,314点	18,914点

(2) 資料の利用状況(過去5年間)

(単位:件)

利用内容	レファレンス	利用案内	閲覧	複写
平成22年度	4,918	4,870	74	66
平成21年度	4,762	4,386	68	78
平成20年度	10,116	3,273	110	88
平成19年度	12,720	4,105	111	106
平成18年度	12,086	3,731	141	111

※ 閲覧・複写は開架資料の閲覧・複写を除く。

(3) 平成23年度の主な事業

事業名	内 容	実施時期
公文書資料目録(CD-ROM)の発行	前年度までに収集・整理した公文書資料(永年保存文書)の簿冊及び件名目録を検索用CD-ROMにて作成	毎年3月
郷土・特別資料室内展示	郷土に関する市民の理解と関心を深めてもらうため、資料室カウンター前等において、様々なテーマで郷土福岡の歴史などを紹介	通年
古文書資料目録発行	前年度までに収集した古文書資料の目録を検索用として作成	毎年3月
古文書学講座	古代・中世・近世・近代の古文書に関する講座を開催(全4回)	9月～10月
企画展(文学)	福岡ゆかりの文学者や文学作品、福岡での様々な文学活動を紹介する展覧会を開催	11月～12月
文学講座	福岡の文学について、市民の理解と関心を深めてもらうための文学講座を実施(赤煉瓦夜話等)	通年

(4) 講座等参加数(入場者数)の状況(過去5年間、延べ人数)

(単位:人)

利用内容	古文書学講座(全4回)	文学館事業企画展	赤煉瓦夜話(10回/年)	その他
平成22年度	168	5,699	600	企画展同時開催講座 246 市民公開講座 32
平成21年度	162	2,962	647	企画展同時開催講座 48
平成20年度	128	3,518	632	企画展同時開催講座 112
平成19年度	128	6,180	500	企画展同時開催講座 124 朗読イベント 34
平成18年度(全6回)	290	小企画展 600 大企画展 2285	-	小企画展同時開催講座 80 大企画展同時開催講座 188 文学講座(4回) 232

○映像資料収集状況

・映像フィルム所蔵数 945本 (平成23年9月現在) (単位:本)

日本映画	アジア映画	ドキュメンタリー	アニメーション	実験映画	合計
164	478	73	82	148	945

※ 主なアジア映画【韓国(60)・イラン(58)・中国(57)・インド(54)】

・ビデオライブラリー資料数 (平成23年9月現在) (単位:本)

映像(VHS・DVD)	7,500	洋画・邦画・アジア映画・教養(歴史 芸術 学術 科学等)・その他
音響(CD・CT)	11,300	音楽(クラシック・ポップス・ジャズ等)・文学・その他

○入場者・利用者状況

・映像ホール・シネラの入場状況 [( )は1回当たりの入場者数] (単位:人)

区 分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
年間入場者	20,999(46)	18,842(43)	20,584(43)	27,170(57)	18,100(39)

・ビデオライブラリーの利用状況 [( )は1日当たりの利用点数] (単位:点)

区 分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
ビデオ等貸出	66,269(234)	58,926(204)	55,784(195)	50,976(174)	39,190(137)
CD等貸出	83,928(297)	77,989(270)	76,896(269)	75,121(256)	73,831(257)
合 計	150,197(531)	136,915(474)	132,680(464)	126,097(430)	111,021(394)

・ミニシアターの利用状況 [( )は1回当たりの入場者数] (単位:人)

区 分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
年間入場者	8,824(29)	8,789(30)	8,391(28)	7,492(25)	8,427(29)

○政令指定都市 図書館開館状況

都市名	中央館		分館		休館日
	開館日	開館時間	開館日	開館時間	
札幌市	月～金	09:15～20:00	火～木	09:15～19:00	毎月第2・4水曜日
	土・日・祝	09:15～17:00	金～月・祝	09:15～17:00	
仙台市	火～金	10:00～20:00	火～木	10:00～19:00	12月は毎週月曜日 1～11月第4木曜日
	土・日・祝	10:00～18:00	金～月・祝	10:00～17:00	
※地区館6館のうち1館が指定管理					
さいたま市	月～金	09:00～21:00	火～金	09:00～20:00	毎月第1・3月曜日
	土・日・祝	09:00～18:00	土・日・祝	09:00～18:00	
千葉市	火～金	09:30～21:00	火～日	09:00～17:15	毎週月曜日 第3木曜日
	土・日・祝	09:30～17:30			
横浜市	火～金	09:30～20:30	火～金	09:30～19:00	第3月曜日
	土・日・月・祝	09:30～17:00	土・日・月・祝	09:30～17:00	
※地区館18館のうち1館が指定管理					
川崎市	月～金	09:30～19:00	月～金	10:00～18:00	第3月曜日
	土・日・祝	09:30～17:00	土・日・祝	10:00～17:00	
新潟市	月～土	10:00～20:00	火～金	10:00～19:00	第1水・第2金曜日
	日・祝	10:00～17:00	土・日	10:00～17:00	
静岡市	月～金	09:30～19:00	火～金	09:30～19:00	祝日の翌日 第2月・第4水曜日
	土・日・祝	09:30～17:00	土・日	09:30～17:00	
浜松市	火～金	09:00～19:00	金	09:00～19:00	毎週月曜日 第4木曜日
	土・日・祝	09:00～17:30	火～日・祝	09:00～17:30	
※地区館22館のうち1館が指定管理					
名古屋市	火～金	10:00～20:00	火～金	10:00～19:00	毎週月曜日 第3金曜日
	土・日・祝	10:00～17:00	土・日・祝	10:00～17:00	
京都市	月・水～金	10:00～20:30	月・水～金	10:00～20:30	毎週火曜日
	土・日・祝	10:00～17:00		～19:00・30	
大阪市	月～金	09:15～20:30	火～金	10:00～19:00	第1・3木曜日
	土・日・祝	09:15～17:00	土・日・祝	10:00～17:00	
堺市	火～金	10:00～20:00	火～金	10:00～20:00	毎週月曜日 3月末、6・9・12月の 第1火曜日
	土・日・祝	10:00～18:00	土・日・祝	10:00～18:00	
神戸市	火～土	09:15～20:00	火～土	10:00～20:00	毎週月曜日
	日・祝	09:15～18:00	日・祝	10:00～18:00	
※指定管理			※地区館10館すべて指定管理		
岡山市	木以外	10:00～18:00	木以外	10:00～18:00	毎週月曜日 第2日曜日・祝日
	木	11:00～19:00			
広島市	火～金	09:00～19:00	火～金	09:00～19:00	毎週月曜日
	土・日・祝	09:00～17:00	土・日・祝	09:00～17:00	
※地区館11館のうち9館が指定管理					
北九州市	火～金	09:30～19:00	火～金	09:30～19:00	毎週月曜日 館内整理日
	土・日・祝	09:30～18:00	土・日・祝	09:30～18:00	
※地区館16館のうち13館が指定管理					
福岡市	火～土	10:00～19:00	火～日	10:00～18:00	毎週月曜日 毎月末
	日・祝	10:00～18:00			

※については、地区で異なる。代表的なものを記載。

○福岡都市圏 図書館開館状況

都市名	開館日	開館時間	休館日
福岡 (県立)	火～土	09:00～19:00	毎週月曜日 毎月末
	日	09:00～17:00	
筑紫野市	火～木・日	10:00～18:00	毎週月曜日 最終水曜日
	金・土	10:00～20:00	
春日市	火～木・日	10:00～18:00	毎週月曜日 最終木曜日
	金・土	10:00～20:00	
大野城市	日～木	10:00～18:00	第1・第3水曜日
	金・土	10:00～19:00	
太宰府市	火～木・日	10:00～18:00	毎週月曜日 最終水曜日
	金・土	10:00～19:00	
那珂川町	火～木・日	10:00～18:00	毎週月曜日 最終水曜日
	金・土	10:00～19:00	
古賀市	火～日	10:00～18:00	毎週月曜日 第4木曜日
宇美町	火～日	10:00～19:00	毎週月曜日 第4木曜日
篠栗町	火～木・土・日	10:00～18:00	毎週月曜日 最終木曜日・祝日
	金	10:00～20:00	
志免町	火～木・土・日	10:00～18:00	毎週月曜日 最終水曜日
	金	10:00～20:00	
須恵町	火～日	10:00～18:00	毎週月曜日 最終木曜日
新宮町	火～日	10:00～18:00	毎週月曜日 最終水曜日
	金(7月～9月)	10:00～20:00	
久山町	10/1～4/30	10:00～18:00	毎週月曜日 第4木曜日
	5/1～7/20、 9/1～30	10:00～19:00	
	7/21～8/31	10:00～20:00	
粕屋町	火～木・土・日	10:00～18:00	毎週月曜日 最終木曜日
	金	10:00～19:00	
宗像市	火～日	10:00～18:00	毎週月曜日 最終木曜日
福津市	火～日	10:00～18:00	毎週月曜日 最終木曜日
糸島市	火～土	10:00～18:00	毎週月曜日 最終水曜日
	日・祝	10:00～17:00	



# 香椎副都心公共施設整備事業（東図書館移転）について

## ※（仮称）香椎副都心公共施設整備基本構想からの抜粋

### ◆事業の経緯

- 平成9年に香椎副都心土地区画整理事業地区内に「将来の新たな行政ニーズに必要な公共施設用地」として、土地開発公社により先行取得。
- 平成15～17年度に関係局・区で構成する「香椎副都心公共施設整備検討委員会」を設置し、計5回の委員会を開催。
- 平成18～19年度に副市長、関係局区庁による「香椎副都心公共施設整備会議」を設置し、計3回の会議を開催。
- 平成20年1月に市政運営会議にて、公共施設用地の整備にかかる基本方針を決定
- 平成20年4月に局区長による「香椎副都心公共施設整備計画検討委員会」設置
- 平成22年8月に下記の導入機能案を決定し、9月議会第1委員会に報告の上、10月に市民公表。
  - ・東市民センター・東図書館機能
  - ・文化活動促進機能として音楽・演劇練習場
  - ・諸証明発行窓口機能等行政サービス機能
- 平成23年8月に整備基本方針を決定
- 平成24年3月に基本構想を策定

### ◆現状と課題

- 現在の東市民センターは、市内で最初の市民センターとして昭和52年に東区香住ヶ丘1丁目に設置され、500席のホール、3つの会議室と1つの研修室、和室、視聴覚室、実習室、音楽室からなっています。
- 規模は3,085㎡と、他の市民センター(3,888～5,218㎡)と比べてかなり小さく、ホールについては舞台の裏通路がない、楽屋・トイレが無いなど、設備面でも劣悪となっています。
- 東市民センターに併設された東図書館は規模が335㎡で、市民センターに併設する他の図書館分館(450㎡～497㎡)と比べてかなり小さく、通路やレファレンスコーナーなど極めて窮屈な状態となっています。
- 駐車場が専用駐車場23台、東体育館と共用が40台と少なく、交通利便性もよくないため、来館しづらいという課題もあります。
- このような規模や施設・設備面での見劣り、交通利便性の悪さなどにより、最も人口の多い東区にありながら、利用率は他の市民センターと比べて低くなっており、これらの状況を総合的に勘案し、東区の人口重心であり交通利便性の高い当該用地に移転するものです。

## ◆図書館部門の計画

図書貸し出しによる情報等の提供をはじめ、情報の収集・発信により市民の様々な活動を支援できる図書館とします。児童と一般利用者双方が過ごしやすい読書空間を確保すると共に、レファレンススペースや閲覧スペース等の充実を図ります。

### (1) 書庫

- ・ 開架書庫については、他の地域の図書館と同程度の一般書架及び児童書架を設置します。
- ・ 一般書架は250㎡程度とし、書架間隔を2,000mm確保します。
- ・ 児童書架は105㎡程度とし、書架間隔を1,800mm確保します。
- ・ 一般書架内に閲覧席やインターネット端末のある85㎡程度のレファレンス室を設けます。
- ・ レファレンス室は他の部屋からの騒音を受けない静かな空間とします。
- ・ 事務室の近くに15㎡程度の開架書庫を設けます。

### (2) お話しの部屋・くつろぎコーナー

- ・ 読み聞かせを行うために、お話しの部屋を設けます。
- ・ 児童のための閲覧室として、くつろぎコーナーを設けます。
- ・ お話しの部屋とくつろぎコーナーは、壁面ではなくアコーディオンカーテン等で仕切り、一体的にも利用できるものとします。
- ・ 2つの部屋を一体利用した場合には大人と子供で50名程度まで収容できるようにします。
- ・ 影絵などもできるように、暗幕を設置します。

### (3) ブラウジングコーナー

- ・ 55㎡程度のブラウジングコーナーを設けます。
- ・ ブラウジングコーナーには、幅広い分野の新聞、雑誌を置き、利用者の多様な情報収集ニーズに応えるものとします。

### (4) カウンター、事務室等

- ・ 全体が見渡せる位置にカウンターを設けます。
- ・ カウンターの裏に事務室を設けます。
- ・ 事務室に隣接して、日常的な図書の整理等が行える作業室、開架書庫を設置します。

## ◆面積及び建設費

部門ごとの目安となる面積は下表の通りであり、本施設全体の延床面積は、概ね12,000㎡程度を想定しています。

また、施設建設費については、現時点で概ね50億円程度を想定していますが、今後も縮減に努めます。

### 1. 市民センター・ホール

部 門	室 名 等	面 積
ホワイエ	ホワイエ、トイレ、主催者事務室、ロッカースペース、備品庫	約 3,800 ㎡
客席	客席（800席）、多目的鑑賞室	
舞台	主舞台（開口部16m、奥行14.5m）、袖舞台	
舞台裏技術	搬入口・荷捌場、大道具倉庫、照明・音響機材庫、ピアノ庫	
技術	コントロール室、投光室、ピンスポット室、調光機械室、アンプ室	
楽屋	小楽屋（1～3名）、中楽屋（10名）、大楽屋（15～20名）、スタッフ控室	
	楽屋ロビー、楽屋事務室、楽屋便所、備品庫、給湯室、シャワールーム、洗濯室	

### 2. 市民センター・諸室

部 門	室 名 等	面 積
会議室	大会議室（120㎡）、中会議室（80㎡）、小会議室（40㎡）、視聴覚室（150㎡） 実習室1（100㎡：調理対応可）、実習室2（陶芸・工作等対応可） 和室（10畳・8畳）、湯沸室	約 1,400 ㎡
フリースペース	フリースペース、託児室	
管理	事務室	

### 3. 音楽・演劇練習場

部 門	室 名 等	面 積
練習室	大練習室（350㎡：2分割可能）、中練習室（120㎡）、小練習室（30㎡）3室	約 1,000 ㎡
ロビー	ホワイエ、コミュニティプレイス、更衣室	
管理	事務室	
倉庫	大道具室、楽器庫、等	

### 4. 図書館

部 門	室 名 等	面 積
閲覧室	一般書架（250㎡）、児童書架（105㎡）、くつろぎコーナー・お話の部屋 レファレンス室、ブラウジングコーナー、カウンター周り	約 700 ㎡
管理	事務室（閉架書庫含む）	

### 5. 行政サービス

部 門	室 名 等	面 積
窓口	市民課関係諸証明発行窓口（150㎡）	約 1,000 ㎡
多目的スペース	キッズルーム、（仮称）市民の広場、会議室（乳幼児健診等対応）2室	

### 6. 利便施設

部 門	室 名 等	面 積
—	物販・カフェ等軽飲食	約 300 ㎡

### 7. その他

部 門	室 名 等	面 積
共用	エントランスロビー、階段、通路、機械室、等	約 3,800 ㎡

床面積合計

約 12,000 ㎡

## ◆平成24年度の取組方針

○平成24～25年度：基本・実施設計及び工事発注準備

《今後のスケジュール》

○平成26～27年度：工事事業者選定及び建設工事

○平成28年度：上期に供用開始予定